



SL MK III

user
guide



novation

目次

はじめに	4 ページ	7. キーボード設定	18 ページ
各部の名称と特徴		A. オクターブ	
ファームウェア機能		B. トランスポーズ	
1. シーケンサービュー	5 ページ	8. テンポ / スウィングビュー	18 ページ
A. ステップビュー		A. テンポの設定	
B. オプション		B. クロックソースの表示	
C. パターンビュー		C. スウィング	
D. オートメーションビュー		D. スウィング同期レート	
E. ライブ録音		E. タップテンポ	
F. オートメーション		9. トランスポート	19 ページ
G. パートのミュート / ソロ		A. 開始 / 停止 / 継続	
2. テンプレート	9 ページ	B. ソングポジション	
3. パートの設定	10 ページ	10. ゾーン	20 ページ
A. テンプレートの選択		A. ゾーンのオン / オフ切替	
B. 送信先の選択		B. ゾーンを選択	
C. チャンネル		C. ゾーンの有効 / 無効化	
D. 入力モニタリング		D. ゾーンの設定	
E. パートのカラー編集		E. ゾーンのキーボード範囲設定	
4. Arp	11 ページ	F. ゾーンのオクターブ / トランスポーズ設定	
A. Arp のオン / オフ切替		G. ゾーンのホイールの有効 / 無効化	
B. Arp のラッチ		H. ゾーンのチャンネルプレッシャーの有効 / 無効化	
C. Arp 設定		I. ゾーンのペダルの有効 / 無効化	
D. パートのアルベジオ		11. セッション管理	22 ページ
E. Arp タイプ		A. セッションの読み込み	
F. Arp ゲート		B. セッションの保存	
G. Arp の同期レート		C. セッション削除	
H. Arp オクターブ		D. セッションのキュー	
I. Arp ベロシティ		E. インスタント・セッションスイッチ	
J. Arp の長さ		F. プログラムチェンジを使用したセッションの読み込み	
K. Arp パターン		G. ソングセレクトを使用したセッションの読み込み	
L. 追加の Arp ノート		H. 保存のロック	
5. GLOBAL 設定	14 ページ	12. スケール	23 ページ
A. ベロシティカーブ		A. スケールの有効 / 無効化	
B. MIDI Clock Rx/Tx		B. スケール設定	
C. MIDI Out 2		13. MIDI ポート / ルーティング	24 ページ
D. Fader Pickup		A. ホスト入力	
E. Clock Out PPQN		B. 出力	
F. CV Mod 1 Range および CV Mod 2 Range		14. Components	25 ページ
G. CV Mod 1 CC および CV Mod 2 CC		A. テンプレートエディター	
H. CV Calibration		B. Librarian	
I. Key LEDs		C. ファームウェアのアップグレード	
J. Arp LEDs		15. InControl	26 ページ
K. Sequencer LEDs		A. DAW 別対応機能	
L. Ext.MIDI LEDs		B. HUI	
M. Firmware および Bootloader Version		C. Ableton Live	
N. スタンバイ・アニメーション		D. Logic Pro X	
6. CV/Gate	17 ページ	E. Reason	
A. ノート			
B. MOD			

Novation

Focusrite Audio Engineering Ltd. の一部門
Windsor House,
Turnpike Road,
Cressex Business Park,
High Wycombe,
Bucks,
HP12 3FX.
United Kingdom

電話 : +44 1494 462246
ファックス : +44 1494 459920
E メール : sales@novationmusic.com
ウェブサイト : www.novationmusic.com

商標

Novation の商標は Focusrite Audio Engineering Ltd. が所有しています。
本マニュアルに記載されているすべての他のブランド、製品名、会社名
およびその他の登録名または商標は個別の所有者に帰属します。

免責事項

Novation は、本ガイドに記載されている情報が正確で完全であることを保証するために
可能なすべての措置を講じています。Novation は本マニュアルまたはそれが説明する機器
の使用から生じる機器の所有者、第三者または機器に対する義務または責任をいかなる場合でも
承諾することができません。本文書に記載の情報は事前の警告なしに随時変更できるものとします。
仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権表示と法定通知

Novation および Circuit は、Focusrite Audio Engineering Limited の商標です。
Circuit Mono Station は Focusrite Audio Engineering Limited の登録商標です。

2017 © Focusrite Audio Engineering Limited. All rights reserved.

はじめに

SL MkIII ユーザーガイドをお手に取っていただきありがとうございます。

本ガイドは、SL MkIII を最大限利用するために必要な知識を提供するために制作されました。本ガイド全体に記されている情報は、SL MkIII の 49 鍵盤および 61 鍵盤の両バージョンに適用されます。本体の詳細な説明や様々な "ビュー"、メニュー、および外部ハードウェアやソフトウェアと一緒に使用方法などが記載されています。さらに、使用に関するヒントやテクニック、およびプロデューサーや演奏者として直面する一般的なシナリオも考慮して解説しています。長年に渡って、SL MkIII を使用した音楽制作を楽しんでいただけることを願っております。

詳細情報、最新のサポート記事、技術サポートチームへのお問い合わせについては、Novation Answerbase をご確認ください：
support.novationmusic.com/

各部の名称と特徴

SL MkIII の 49 鍵盤および 61 鍵盤には、同一のフロントパネル（およびコントロール部）とリアパネルの接続部が備わっています。



1. 電源オン / オフボタン
2. DC 電源ジャック：12V/1,200 mA 電源に対応
3. USB タイプ B ソケット
4. MIDI IN、MIDI OUT、OUT2/THRU 用の 3 つの DIN ソケット (5 ピン)
5. ペダル 1 (SUSTAIN)、ペダル 2 (EXPRESSION) 用のシルバーのメタルリング付 1/4 インチ TS および TRS ジャック x2、ペダル 3 (FOOTSWITCH) 用 1/4 インチジャック x1
6. CLOCK OUT、CV1、GATE1、MOD1、CV2、GATE2、MOD2 出力用のシルバーメタルリング付 3.5mmTS ジャック x7
7. ケンジントンセキュリティスロット
8. ティールシリコーンストリップ：SL MkIII 本体土台
9. "Shift" ボタン
10. "Global" (共通設定) ボタン
11. "InControl"、"Zones"、"Sequencer"、"Scales"、"Arp"、"Tempo"、"Latch" ボタン
12. セッション 1 ~ 4 のページ変更に使用する上下の矢印ボタン
13. "Grid" ボタン、8 つのソフトボタン、"Options" ボタン
14. 上下ページボタン
15. 8x2 のペロシティセンシティブ・パッド
16. 8 つのロータリーノブ
17. 5 つの LCD 画面
18. 右矢印ボタン
19. 8x2 のソフトボタンエリア
20. RGB LED
21. および 22. 上下の矢印ボタン (四角形)
23. 8 つのフェーダー
24. トランスポートボタン
25. "Save"、"Duplicate"、"Clear"、"Sessions"、"Patterns"、"Track" (左右)、"Octave" (上下) ボタン (計 10 個)
26. RGB LED 搭載ピッチおよびモジュレーションホイール
27. 49 または 61 の RGB 鍵盤 LED
28. アフタータッチ・ストリップ搭載シンセスタイルのセミウェイテッド鍵盤

ファームウェア機能

1. シーケンサービュー

SL MkIII の中心部にはシーケンサーが備わっており、MIDI パターンを楽しくクリエイティブな方法でアレンジできます。Shift ボタンを押してから "Sequencer" ボタン (本体左側) を押して Sequencer を有効または無効にします。有効になると Sequencer ボタンが白色に変わり、無効になるとオレンジ色に変わります。Sequencer スイッチがオンになると、トランスポートボタン (本体右側) が点灯し、シーケンサーを制御できるようになったことを示します。

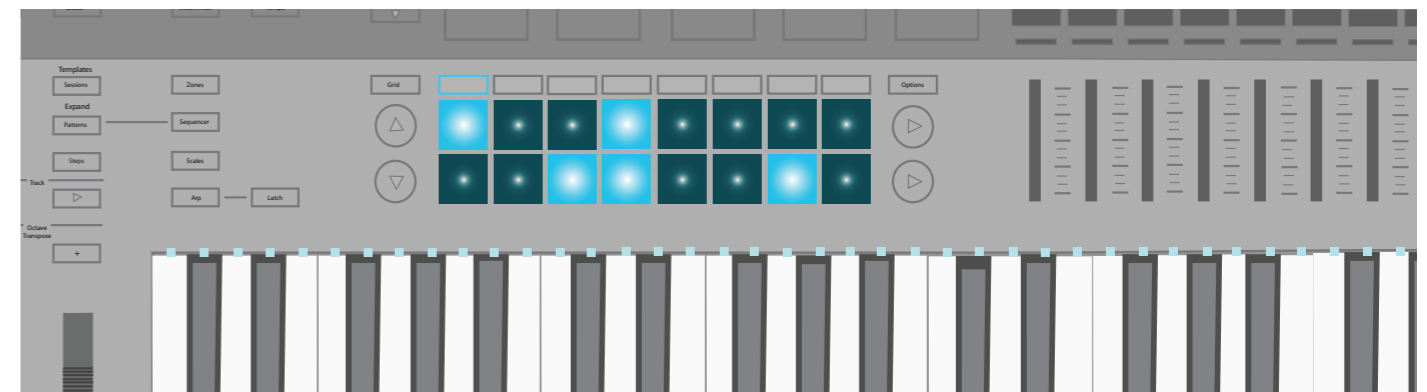
Sequencer ボタンを押せば、いつでもシーケンサービューに切り替えることができます。シーケンサービューは、"Steps" ボタンでアクセスできるステップビューと、"Patterns" ボタンでアクセスできるパターンビューの 2 つのサブ・ビューによって構成されています (後述)。別のビュー (例：ゾーンビュー) を操作中に、Sequencer ボタンを押すと、直前に選択されていたシーケンサーサブ・ビューへ戻ります。

また、"Grid" ボタンでは、直前に選択されていたシーケンサーのサブ・ビューとテンプレートの間で 8x2 のパッド機能を切り替えます (テンプレートの詳細はセクション 2 を参照)。

※ Sequencer ボタンがオレンジ (オフ) の場合、Sequencer ボタンを押すとシーケンサービューにアクセスでき、現在のセッション内のシーケンスを確認したり編集したりすることができますが、トランスポートボタンはシーケンサーが再度有効になるまで使用できなくなります。

A. ステップビュー

ステップビューでは、パターンのステップの確認や編集が行えます。ディスプレイ下の 16 (8x2) の四角いパッドは、利用できる 16 のパターンステップを表します。



Sequencer を有効にした状態でトランスポートの再生ボタンを押すと、パッド (ステップ) が白く点灯しながら移動し、シーケンサーが動いているのがわかります。MIDI ノートを持つステップは明るく点灯します。再生位置がこれらの明るいステップの一つに到達すると、割り当てられたノートが再生されます。

ノートに割り当てるには、トラックを選択し、パッドを押しながらそのステップにトリガーさせたいキー (例：C# や Gb) を押します。この逆を行うこともできます。その場合、まずキーを押しながらノートやサウンドを入力したいパッドを押してください。トランスポートの録音ボタンを押して、リアルタイムに録音することも可能です (詳細は「ライブ録音」を参照)。

ステップからノートを削除するには、パッド (ステップ) を押し続けます。すると、対応するキーの LED が赤色に点灯します。トランスポートが停止すると、ノートが対応するパートに対してそれらに割り当てられたペロシティで再生されるので、キーを押してノートを削除してください。

トランスポートが再生中または停止中の場合、"Clear" ボタンを押しながらステップを押すことで (短く赤色に変わります)、そのステップからすべてのノートとオートメーションデータが削除されます。

ステップをコピーするには、"Duplicate" ボタンを押しながらパッドを押します (短くグリーンに変わります)。そのまま Duplicate を押し続けながら、ペースト先のパッドを押します。1 つのパッドを別のパッドに複製すると、それが追加されるのではなく、ペースト先のパッドに存在していたすべてのデータが消去されるためご注意ください。

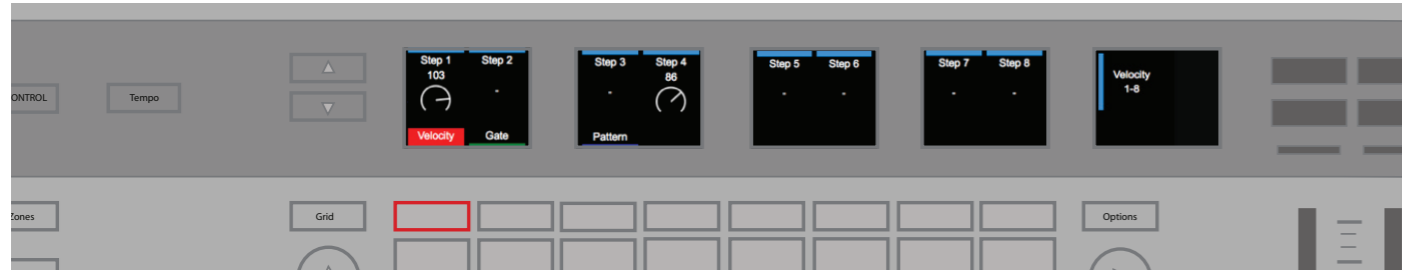
ステップは、トラック間でのコピーも可能です。この場合も、Duplicate ボタンを押しながらパッドを押してステップをコピーします。そのまま Duplicate ボタンを押し続けながらトラックを変更し、パッドを押してペーストします。オートメーションデータはコピーされないためご注意ください。

B. オプション

ステップビューを操作中、"Options" ボタン（パッドの右側）を押すことで現在のパターンに対するオプションを確認できます。"Velocity"、"Gate"、"Pattern" 下のソフトボタンで、これらの設定を呼び出します。再度 Options を押すと、ステップビューに戻ります。

i. ベロシティ

オプションメニューで "Velocity" 下のソフトボタンを押すと、現在のパターンの各ステップのベロシティを編集できます。デフォルトでは、画面にステップ 1～8（1 画面につき 2 つ）が表示されますが、画面左側にある上下の矢印ボタンを使用することで、ステップ 9～16（パッドの下一列）にアクセスできます。



調整したいステップの上のノブを回転させるだけで MIDI ノートのベロシティを調整できます。ステップのベロシティは 1～127 の範囲で設定できます。これにより、細かいレベルの精度で希望の MIDI ベロシティを選択することができます。

複数のノートを含むパターンのステップの場合にも、画面上には単一のベロシティのみが表示されますが、ステップに割り当てられた複数のノートに存在する異なるベロシティのうち、最も高い値のものが表示されます。

1 つのステップに割り当てられた複数のノート进行处理の際、ステップのベロシティは全く新しいものに変化します。これを行った場合、より高い値が優先的に選ばれ、それらに最も近い値に吸着します。つまり、ベロシティ値が 25 と 89 のノートが含まれるステップの場合、このステップのノブを右に回すと、25 と 89 のベロシティ値の両方が 90 以上の値に変化します。ノブを左に回した場合、25 と 89 のベロシティ値の両方が 88 以下の値に変化します。

このように、一つのステップ上の全てのノートが同じベロシティ値までスナップされた場合、そのステップに割り当てられている全ての新しいノートは直ちにグループベロシティを採用します。

ii. ゲート

オプションメニューの次の項目は "Gate" となっています。Gate を選択すると、現在のパターンの各ステップに割り当てられている MIDI ノートの長さを編集できます。ここでも、画面左側にある上下の矢印ボタンを使用することで、ステップ 9～16 にアクセスできます。複数のノートを含むパターンのステップの場合にも、画面上には単一のゲート値のみが表示されますが、ステップに割り当てられた複数のノートに存在する異なるゲートのうち、最も高い値のものが表示されます。

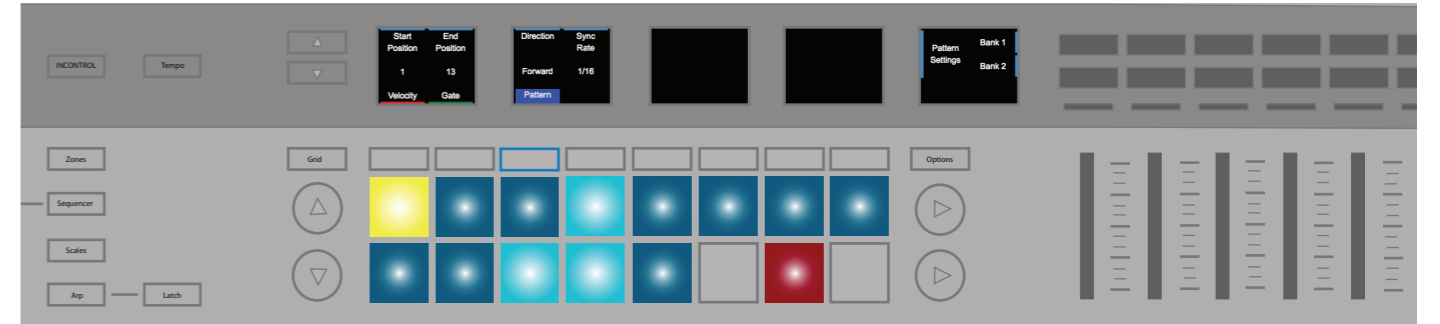


SL MkIII では、ゲートが 1 ステップ単位とさらに小さな単位によって測定され、1 ステップは 6 つの断片に分解されます。したがって、ゲート値はステップ番号として表示され、さらにその断片の単位が表示されます（下部メーター内に現れる 5 つの白の四角いアイコン）。各ステップ上部のノブを使用して、割り当てられた各ノートのゲートを調節してみると、どのようにノートのデフォルト値が「1 ステップ」分になるか試してみてください。

[SL MkIII は MIDI の規則に従って動作するため、生成されるサウンドに対してゲートのパラメータがどのように影響するかは、トリガーされるサウンドおよびそのサウンドを生成する MIDI インストゥルメントによって異なります。例えば、短いハイハットのサンプルに 16 ステップ分のゲートが設定されていても、サウンドが引き伸ばされることはありません。しかしその MIDI ノート自体は、実際に聞こえる音と関係なく 16 ステップの長さとなります。

iii. パターン

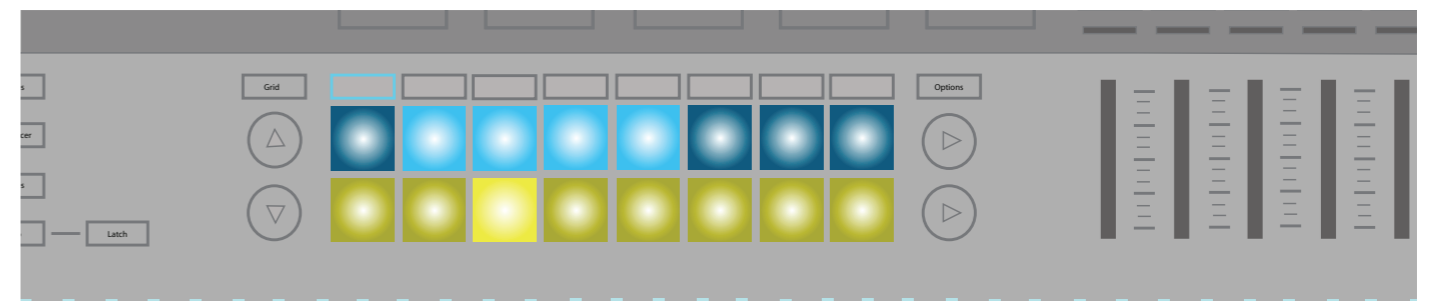
オプションメニューの最後の項目は "Pattern" となっており、"Start Position"、"End Position"、"Direction"、"Sync Rate" の 4 つのサブ・オプションが含まれています。これらの設定を編集することで、パターン再生の方法に面白い変化が加わるため、ぜひ様々な設定を試してみてください。パターン再生方法の変化は、再生位置がパターンの最後に達した際に適用されます。ここでは、以下の項目を設定することができます：



- Start Position - すぐ上のロータリーノブを動かすことで、パターンが開始するステップの位置を変更し、効果的にパターンの長さを変更します。該当するステップを表すパッドは黄色に点灯するため、開始位置が移動していることがわかります。
- End Position - すぐ上のノブを動かすことで、パターンが終了するステップの位置を変更し、効果的にパターン長を変更します。End Position は Start Position の前に移動させることも可能です。ノートを含むステップが聞こえなくなるような End Position に設定した場合、これらのパッドは赤色に点灯します。
- Direction - パターンの再生方向を変更します。以下から設定が可能です：
 - Forward - デフォルトで設定されている方向であり、開始位置のステップから始まり終了位置のステップまで順に再生される一般的な方向を示します。
 - Backwards - 反対に、終了位置から再生が始まり、開始位置へ順に進みます。リバース的な再生方法です。
 - Ping-Pong - 1 ターン目は開始位置から再生が始まり、終了位置のステップまで順に再生されますが、続く 2 ターン目は終了位置から再生が始まり、開始位置まで順に再生されます。終了位置のステップは反復されます。
 - Random - 再生方向オプションの中で最も実験的なものであり、開始位置と終了位置の間からステップをランダムな順番で選択し、ノートがリピートされたりカオスを生じさせます。
- Sync Rate - BPM（内部または外部）に対応してステップが生じるレートを変更します。以下から設定が可能です：
 - 三連 32 分音符、32 分音符、16 分音符三連符、16 分音符（デフォルト）、三連 8 分音符、8 分音符、三連 4 分音符、4 分音符

C. パターンビュー

"Steps" と "Sessions" の間の "Patterns" ボタンを押すとパターンビューが開き、現在のセッション内で MIDI パターンを選択できます。8x2 のパッド上に各トラックで利用できる 8 つのパターンが横一列ずつ配置されます。パッドは各パターンを表し、その部分の色が適用されます。パッド左側の上下ボタンを使用して、全 4 ページのパターンをスクロールできます。



パッドを押すと新しいパターンが選択されます。トランスポートが停止された場合、トランスポートが開始されると新たに選択したパターンが再生されます。再生中に新しいパターンを選択すると、現在再生されているパターンが終了され次第新しいパターンが変更されます。Shift を押しながら新しいパターンを選択することで、即座にパターンが切り替わり、現在のパターンが終了位置に達するまで待つことなく新しいパターンを聞くことができます。興味深い方法でパターンを組み合わせる方法にもなるでしょう。

I. パターンチェーン

パターンを構成していく上でより長いパターンが必要な場合、パターン同士を組み合わせることでより長いシーケンスを作成することができます。2 つ以上のパターンを同時に押すことで、押された一番左のパターンから始まり一番右のパターンで終わるパターンチェーンが生成されます。パターン同士を適当に組み合わせるといより、連続したパターンを慎重に組みわせてより長い音楽アイデアを形成することが可能です。

一度により多くのトラックを確認したい場合や、2 つのパターンチェーンのみで作業している場合には、"Shift" と "Patterns" を押すことで、拡大ビューにアクセスできます。これにより、各トラックごとにパターンが縦方向に配列されます。ページボタンを使用するとより多くのパターンにアクセスできます。Patterns ボタンを押せば、デフォルト（横配列）のパターンレイアウトに戻ることができます。

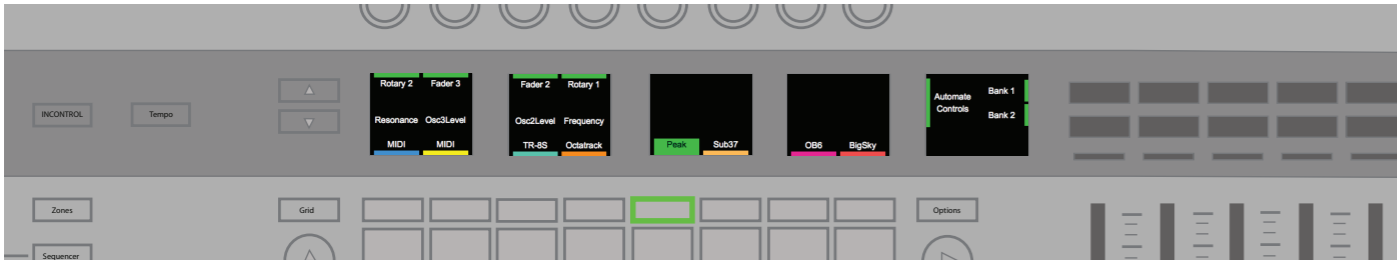
"Clear" を押しながらパターン（パッド）を押すと、そのパターンから全てのノートとオートメーションデータが削除され、パターンがそのデフォルト設定にリセットされます。

パターンをコピーするには、"Duplicate" を押しながらパターンを選択します。Duplicate を押し続けたままパッドを押すことでペーストされます。Duplicate を押さえながら複数回ペーストすることが可能です。また、トラック間でパターンをコピーすることもできます。この場合にも、ステップと同じく、パターンのオートメーションデータはトラック間ではコピーされません。

何かインスピレーションが欲しい時や、新しいことを試したい時には、トラック間でパターンをコピーしてみると良いでしょう。ドラムのパターンをベースのトラックにコピーしてみたり、その反対のことを試してみれば、予想もできないような面白い効果が生まれるかもしれません。

D. オートメーションビュー

パターンビューが選択された状態で "Options" ボタンを押すと、オートメーションビューに切り替わります。オートメーションビューでは、各コントロールタイプや選択されているトラックでオートメーションが記録されたコントロール部の名称が「レーン」として画面に表示されます。画面下のソフトボタンを使用することで、異なるトラックを選択してそのオートメーションを確認できます。



"Clear" ボタンを押したままレーンの上のロータリーを回すと、コントロール部（例："Transpose" または "Ve Attack"）に記録された全てのオートメーションが削除されます。レーンを削除したら、それを別のコントロールに使用できます。

E. ライブ録音

SL MkIII では、リアルタイムの演奏を直接シーケンサーに録音できます。トランスポートの録音ボタンを押すことで、ライブ録音が有効になります。アイデアを即座に反映させるために、再生中に録音ボタンを押すことも可能です。トランスポートが停止中の場合には、録音ボタンを押してから再生ボタンを押すことでライブ録音を開始できます。録音中に鍵盤または MIDI（USB および DIN の両方）によって演奏される全てのノートはシーケンスに録音されます。

MIDI から録音している場合、そのパートに対して選択されている MIDI チャンネルから受信されたノートのみが録音されます。ライブ録音かどうかに関わらず、ノートはそのパートの出力にも転送されます。

ライブ録音中、「ノート・オン」の信号は再生パターンの同期レートにクオンタイズされ、「ノート・オフ」は最も近い 24 PPQN ティックにクオンタイズされます。シーケンサーは各パターンチェーンを通してループするため、新しいノートをオーバーダブすることができます。録音を始める前に、自身のパフォーマンススタイルに合ったパターン設定（シーケンサー / オプション / パターン設定を参照）およびパターンチェーンの長さ（シーケンサー / パターンビューを参照）を行っておくようご注意ください。

F. オートメーション

SL MkIII のシーケンス録音では、以下のテンプレートコントロールのオートメーションを記録することができます。

- ロータリーノブ
- フェーダー
- ソフトボタン
- パッド（押す / 離す動作、およびプレッシャー）
- ピッチ / モジュレーションホイール
- ペダル

コントロールを動かすと対応する LED や画面がただちに赤く点灯し、トランスポートが進行するにつれて既存のコントロールのデータのいずれかが上書きされ始めます。現在のパターン同期レートに関係なく、動作は 24 PPQN の分解能で記録され、再生されます（デフォルトの 1/16 の同期レートで各ステップに対して 6 データポイントに相当）。録音または再生が停止されるまで、オートメーションは記録され、上書きが行われます。したがって、オートメーションが上書きされないよう、シーケンサーが次のループを開始する前にできるだけ早く録音を無効にすることを推奨します。

セッション内では、トラックごとに最大 8 つのコントロールのオートメーションを記録できます。別のオートメーションレーンを使用していた場合や、選択中のトラックにこれ以上利用できるレーンが無くなった場合、画面上に通知されます。

ソングポジションにアサインされている、対応したノブやコントロールのオートメーションを記録することはできません。また、ノートメッセージを出力するパッドやボタンは、オートメーションとして記録されるのではなく、ノートのシーケンスに対して記録されます。

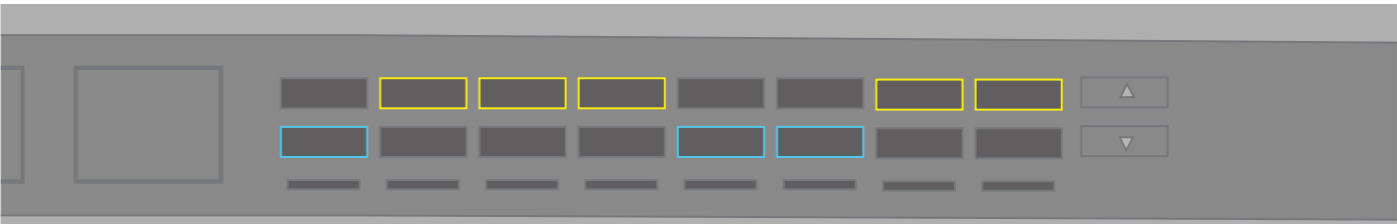
"Clear" ボタンを長押しすると、現在のパターン内でオートメーションデータを含む全てのコントロールが示され、それ以外を非表示にします。例えば、ピッチホイールのオートメーションが記録されている場合、Clear を長押しするとその LED が点灯します。Clear を押し続けながらコントロールを動かすと、それに含まれる現在のパターン内のオートメーションは全て削除されます。

より高い精度が必要な場合、手動で値をステップに割り当てることも可能です。停止中にトランスポートの録音ボタンを押し、（パッドを押して）ステップを選択してステップ編集モードに切り替えます。コントロールを任意の値まで動かして値をステップに割り当て、録音を無効にします。ピッチホイールの場合は、任意の位置に動かし、ホイールから手を離す前に録音を無効にします。

直前のコントロール値のみがステップへ割り当てられるためご注意ください。つまりステップ編集モードでは、モーメンタリー機能を備えたボタンやパッドを押して離すと、離す動作のメッセージのみが記録されることを意味します。ボタンやパッドの押す動作のメッセージを記録するには、録音を無効にするか新規ステップを選択してパッドから手を離す前にその動作を記録してください。

G. パートのミュート/ソロ

シーケンサーのトラックをミュートまたはソロにするには、Sequencer ボタンを押してから 8x2 ボタンの右側にある上矢印を押すと、いちばん右の画面に "Mute" および "Solo" と表示されます。



パートに対応するミュートボタン（上の列のオレンジのソフトボタン）を押すと、そのパートがミュートされます。ミュートされると、シーケンサーはそのパートに MIDI を出力しませんが、そのパッドの鍵盤を演奏したり、パッドを確認することができます。

パートに対応するソロボタン（ソフトボタンの下の列）を押すと、そのパートがソロになります。パートをソロにすると、一緒にソロにされていない他のパートが無音になります（それがすでにミュートされていない場合）。無音になったパートのミュートボタンは黄色く点滅し、無音であることを示します。

2. テンプレート

各パートはテンプレートに従って作動します。言い換えれば、各パートはテンプレートを使用することで、各コントロールに送る MIDI メッセージを決定します。テンプレートはテンプレートビューに存在し、"Shift" と "Sessions" ボタンを押すことでアクセスできます。テンプレートは各コントロールから送られる MIDI メッセージのタイプを決定します。テンプレートには次のコントロールのマッピングデータが含まれます：

- 16 のロータリーノブ (2 ページ)
- 16 のパッド (押す動作とプレッシャー)
- 8 のフェーダー
- 16 のボタン
- モジュレーションホイール
- フットスイッチ、エクスプレッション、サステインペダル

テンプレートはスタンドアロンのアプリケーション "Components" を使用することで設計および管理を行えます。Components は以下から入手できます：<https://components.novationmusic.com> Components を使用すれば、多数の異なる MIDI メッセージのうちの一つを異なる範囲、値および動作と共に送信するよう各コントロールを構成することができます。

マッピングが有効でない場合、コントロールに対応する LED または画面が空白になりそれが無効になっていることを示します。

マッピングが有効なコントロールを動かすと、一番右の画面にメッセージタイプや対応する値が示されます (例：0-127)。

3. パートの設定

SL MkIII では、パートの送信先をカスタマイズできます。最大 12 までの外部キットやソフトウェアを使用して複雑なセットアップを構築できます。これらは以下の方法によって、テンプレートで設定が可能です：



A. テンプレートを選択する

以下の方法でパートのテンプレートを変更します：

- "Shift" と "Sessions" ボタンを同時に押して、テンプレートビューに切り替えます。
- ソフトボタンを使用して変更したいパートを選択します。デフォルトでは、これらのパートに "MIDI" のラベルが振られています。
- 一番左のロータリーノブを使用して、テンプレートを選択します。テンプレートを読み込んでいる間、選択されたテンプレートを囲っている四角形がグレーに変わり、テンプレートが完全に読み込まれると白に変わります。

テンプレートにまだ名前が付けられていない場合、"Template x" として表示されます。

B. 送信先の選択

各パートは 1 つまたは複数の送信先に設定することができます。送信先は、MIDI、アナログの CV/GATE/MOD から選べます。以下の方法でパートの送信先を設定します：

- "Shift" と "Sessions" ボタンを同時に押して、パート設定ビューに切り替えます。
- 画面下のソフトボタンを使用してパートを選択します。
- "USB"、"DIN 1"、"DIN 2"、"CV/Gate 1" または "CV/Gate 2" の上のロータリーノブを設定してそれらを変更します (選択肢は次の通りです)。

- USB: Off/On
- DIN: Off、1 または 2、あるいは Both (両方)
- CV/Gate: Off、1、2、あるいは Both

送信先の環境設定はそのセッションに保存されるため、セッションを変更するとその送信先も変更されます。

C. チャンネル

パートの MIDI チャンネルはチャンネルコントロールを使用して設定し、チャンネル 1 ~ 16 の中から選ぶことができます。

※チャンネル 16 はプログラムチェンジやソングセレクトなど特定のメッセージのための共通チャンネルとして使用されます。パートをチャンネル 16 に設定し、接続済みの機器 (Circuit など) でセッションを変更した場合、SL MkIII 上のセッションも変更されてしまうため、保存していない編集内容が失われる場合があるのでご注意ください。

D. 入力モニタリング

入力モニタリングがオンの場合 (デフォルトではオフに設定されています)、各パートが受信する MIDI ノートメッセージはそのパートの送信先に転送されます。外部の MIDI ノートメッセージは、この設定に関わらず常に内部シーケンサーによって記録されます。

E. パートのカラー編集

パートを選択し、異なる色に点灯する 8 つのパッドのうち一つを選択することによって、パートのカラーを変更することができます。

4. アルペジエーター

SL MkIII の Arp (アルペジエーター) では、テクノをはじめ多くのエレクトロニックな音楽にとって理想的な、クラシックかつ機械的なアルペジオをプログラミングすることができます。ここでは、アルペジエーターの使い方について解説します。



A. Arp のオン / オフ切替

"Shift" を押したまま "Arp" ボタンを押すことで、アルペジエーターのオン / オフを切り替えます。Arp ボタンが白色に点灯している場合、アルペジエーターがオンの状態を示します。

アルペジエーターがオンの場合、鍵盤上で押されたノートにアルペジエーターが適用されます。

また、シーケンサーもアルペジエーターを構成します。シーケンサーへ録音を行っている際、長押しされた鍵盤は長いノートとしてパターンに録音されます。そして、Arp がオンになっていると仮定され、これらの長いノートが Arp へ戻るようルーティングされて再生されます。

B. Arp のラッチ

SL MkIII のラッチ機能を使用することで、アルペジエーターを最大限に楽しむことができます。

"Latch" ボタンを押すと、Arp のラッチのオン / オフが切り替わります。オンの場合、アルペジエーターが適用されている全てのノートから指が離され、さらに新しいノートが演奏されるまでノートオフが行われません。

※ Arp がオンの場合もオフの場合もラッチは機能します。Arp のオン / オフ状態に関わらず、基本的にラッチは継続的な MIDI ノートを通り抜けます。例えば、外部アルペジエーターや長いサステインを持つ外部のシンセパッチへ MIDI を送信する場合、ラッチを使うと便利です。

ラッチと同期レート

ラッチは選択された Arp の送信先パートにのみ適用されます。

同期レートとゲート

C. Arp 設定

(Shift を長押しせずに) Arp ボタンを押すと、画面に次の設定が表示されます。

同期レートとゲートの設定

- Part
- Type
- Gate
- Sync Rate
- Octaves
- Velocity
- Length

同期レートとゲートの調整

これらの設定を編集することで、アルペジオサウンドを大幅に変化させられます。次のセクションではこれらの設定をさらに詳しく解説します。

同期レートとゲートの調整

D. パートのアルペジオ

アルペジエーターは、一度に 1 パートにのみ適用できるため、デフォルトでは "Selected Part" (選択されたパート) に設定されています。その代わりに、上部のロータリータブを使用してアルペジエーターが適用されたパターンをパート 1 から 8 のいずれかに送るよう選択できます。つまり、アルペジエーター適用後のパターンを異なるパートに送ることによって、楽曲上の異なる要素ごとにその効果を確認することが可能です。

同期レートとゲートの調整

E. Arp タイプ

Arp のタイプは以下のパターンから選択できます：

同期レートとゲートの調整

- Up (デフォルト) - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従って音程の高い方向に向かって演奏され、パターンが繰り返されます。
- Down - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従って音程の低い方向に向かって演奏され、パターンが繰り返されます。
- Up/Down 1 - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従って音程の高い方向に向かって演奏された後、低い方向に向かって演奏され、全体のパターンが繰り返されます。反復されるノートはありません。
- Up/Down 2 - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従って音程の高い方向に向かって演奏された後、低い方向に向かって演奏され、全体のパターンが繰り返されます。一番高いノートと低いノートが反復されます。
- Random - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従ってランダムな順序で演奏され、鍵盤から指が離される (ラッチが解除される) まで演奏されます。
- Played - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従って演奏された順番に演奏され、全体のパターンが繰り返されます。
- Chord - 長押しされた、またはラッチされているノートが Arp の同期レートに従ってコードとして各 Arp ステップで演奏され、鍵盤から指が離される (ラッチが解除される) まで演奏されます。

同期レートとゲートの調整

F. Arp ゲート

Arp のゲートコントロールは、アルペジオートされたノートの長さを一つのアルペジオートされたステップの最大限の長さ (100%) からアルペジオートされたステップの 100 分の 1 まで短縮します。デフォルトではゲートが 100% に設定されており、1 から 100% まで調整可能です。ゲートは Arp の同期率とテンポによって設定されるため、同期レートが変わりテンポが増減すると、Arp ゲートの長さは Arp ステップの長さの一貫したパーセンテージを保ちます。

同期レートとゲートの調整

G. Arp の同期レート

この設定では、Arp が SL MkIII のクロックにしたがって実行される音楽的なレートを変更します。以下から選択が可能です：

同期レートとゲートの調整

- 1
- 1/2
- 1/2 三連符
- 1/4
- 1/4 三連符
- 1/8
- 1/8 三連符
- 1/16 (デフォルト)
- 1/16 三連符
- 1/32
- 1/32 三連符

同期レートとゲートの調整

H. Arp オクターブ

この設定では、Arp が構成されるオクターブの範囲を増やすことができます。例えばオクターブを 2 に設定した場合、そのシーケンスが再生された直後に 1 オクターブ高いシーケンスが続いて再生されます。3 に設定された場合、シーケンスが 1 オクターブ高く再生された直後にさらに 1 オクターブ高いものが再生されます。デフォルトではオクターブが 1 に設定されていますが、6 まで設定することが可能です。

同期レートとゲートの調整

アルペジオートされたノートがその範囲を超えた場合、ノートが一番高いオクターブ (G#6 ~ G7) の範囲内になるよう修正されます。

同期レートとゲートの調整

オクターブは、選択した Arp タイプによって様々な形で運動します。以下では、タイプによって異なるオクターブの効果を紹介します：

同期レートとゲートの調整

- タイプが Up/Down または Up/Down 2 の場合、音程の低い方向に向かって演奏を始める前に全てのオクターブ範囲で高い方向に向かって演奏します。
- タイプが Played の場合、追加されたオクターブで反復する前にシーケンスのノート全てを最初のオクターブで演奏します。
- タイプが Random の場合、全てのオクターブ範囲にわたってランダムにノートが選択されて演奏します。
- タイプが Chord の場合、オクターブが追加されると、押さえられたノートがオクターブ設定に従って音程の高い方向に反復して演奏されます。例えば、オクターブを 3 に設定した場合、押さえられたノートがそのピッチで演奏された後、1 オクターブ上で演奏され、次に 2 オクターブ上で演奏された後、そのパターンが反復されます。

同期レートとゲートの調整

この設定をを変更した場合、重複されるノートは存在しません。

同期レートとゲートの調整

I. Arp ベロシティ

同期レートとゲートの調整

Arp のノートベロシティは、1 ~ 127 の値 (標準 MIDI ベロシティ) もしくは "Played" (デフォルト) より設定できます。

同期レートとゲートの調整

Played に設定すると、演奏する際のベロシティがアルペジオートされるノートに適用されます。

同期レートとゲートの調整

1 ~ 127 の範囲の値に設定された場合、アルペジエーターによって出力されるノートのベロシティがその値に固定されます。例えば "65" に設定された場合、出力されるノートのベロシティは全て 65 となります。

同期レートとゲートの調整

J. Arp の長さ

同期レートとゲートの調整

この設定では、アルペジオの長さをステップ単位で選択します。デフォルトでは、アルペジエーターは 16 ステップを 1 ループ分としますが、さらに短くすることも可能です (1 ~ 15 ステップ)。Arp の同期レートは 1 ステップ分の長さを設定します。

同期レートとゲートの調整

1 パッド = パターン内の 1 ステップとして、8x2 のパッドエリアでパターンの長さを確認することができます。

同期レートとゲートの調整

K. Arp パターン

同期レートとゲートの調整

Arp パターンでは、アルペジオのリズムをカスタマイズすることができます。"Arp" ボタンを押すと、各パッドがアルペジオパターン内の 1 ステップを表します。対応するパッドを押すことでステップのオン / オフが切り替わり、パターンのリズムを変更することが可能です。演奏されるパッドは明るく点灯し、演奏されないパッドは暗く点灯します。アルペジエーターを走らせると、再生位置を示す白いパッドが移動します。

これによって生成されるリズムは演奏されるノートのタイミングにのみ影響し、それらが演奏される順序を変えるものではありません。

L. 追加の Arp ノート

オクターブの範囲を 2 以上に設定して "Up/Down 1" を使用している際、音程の低い方向へ移動している時にオクターブの範囲を 1 に変更すると、1 オクターブ内に到達するまで Arp はすべてのオクターブ範囲内を演奏します。到達した時点から 1 オクターブ内での演奏に変化します（Novation Mininova にお馴染みの機能です）。音程の高い方向へ移動している場合は、演奏されている現在のオクターブ内のシーケンスで全てのノートが演奏された後でアルペジエーターが最初のオクターブへリセットされます。

"Up/Down 2" を使用している場合、最高 / 最低音のノートが一度のみ演奏された後でノートが解除された場合、Arp は直ちに方向を切り替え、次に高い / 低いノートを一度だけ演奏し、その方向で再生を継続します。これにより、最高音のノートが演奏される前に別のノートに置き換えられた場合にもタイミングを維持することができます。

アルペジエーターの再生方向に関わる設定を再生中に切り替えた場合、アルペジエーターの再生位置はリセットされず、一番上 / 下のノートに到達するまで同じ方向へ移動を続けます（新しく選択された設定が対応する場合）。例えば "Down" から "Up/Down 2" のタイプへ切り替える場合、最低のノートに到達するまで音程の低い方向に移動し続けます。

5. GLOBAL 設定

"Global" ボタンを押すと、共通設定ビューに切り替わります。ここで変更された設定は本体全体に影響を与えるものであり、セッションごとに変更されるものではありません。本体が電源スイッチによってオフにされた場合、これらの設定が保存されます。しかし、電源ケーブルが引き抜かれてしまった場合、これらの設定は保存されません。

画面隣の上下の矢印を押して、3 ページにわたる共通設定 / 情報を確認することができます。

A. Velocity Curve

以下の方法で SL MkIII のキーボードの感度を変更することができます：

- "Global" を押して共通設定メニューまで移動します。
- "Velocity Curve" とラベルが付いたメニュー項目が現在のベロシティカーブを示します。
- 次のベロシティオプションから選択してください：

- Low
- Low+
- Normal
- Normal+
- High
- Fixed（固定）

"Low" を選ぶと、MIDI がより低い値に変更されます。つまり、低いベロシティ値は簡単にレンダーでき、127 のような高い値を生成するには大きな圧力を適用させる必要があります。"Low+" を選んだ場合、"Low" よりは簡単に高いベロシティを得られ、"Normal" および "Normal+" を選んだ場合、さらに簡単に高いベロシティを得られます。

"High" を選んだ場合、最も簡単に高いベロシティを生成することができます。鍵盤を非常に軽く押してもなかなか低いベロシティになりません。鍵盤を押す力が弱い方で、より簡単に高いベロシティ値を生成したい方に有用な設定です。

- 固定ベロシティ

"Fixed"（固定）を選択した場合、鍵盤を押す力に関わらず、同じ MIDI ベロシティが生成されます。"Fixed" を選択すると、"Velocity Curve" の隣に "Fixed Velocity" と呼ばれるメニュー項目が表示され、鍵盤を押すごとに適用される MIDI ベロシティを設定できます。

B. MIDI Clock Rx/Tx

- MIDI Clock Rx

MIDI クロック伝送の場合と似たように（次のセクションを参照）、以下の方法で外部 MIDI クロックメッセージの受信を有効または無効にします：

- "Global" ボタンを押してメニューを表示させます。
- "MIDI Clock Rx" とラベルの付いたメニュー項目に "On" または "Off" が表示され、本体が外部 MIDI クロックに応答できるかどうかを示します。
- 上部のロータリーノブを右に回して MIDI クロックの受信を有効にするか、または左に回して MIDI クロックの応答を無効にします。

"On" に設定されている場合、いずれかの MIDI 入力（USB または DIN）で MIDI を検出した場合、SL Mk Ⅲが外部クロックに同期されます。必ず MIDI を USB または DIN どちらかへ送信するようにしてください。両方に送信した場合、同期が外れたり、テンポが不安定になる場合があります。

"Tempo" ボタンを押すことで、SL MkIII が外部クロックを正常に受信していることを確認できます。その場合、同期されているテンポが "External" の文字と共に表示されます。外部機器またはソフトウェアのテンポに対して加えられた変更はここに反映されます。再生中に SL MkIII の同期が外れた場合、"Sync Lost" というメッセージが表示され、再生が停止されるまで内部クロックに切り替わりません。

- MIDI Clock Tx

SL MkIII は内部 MIDI クロックを送信することも、外部機器に同期させることも可能なため、他の機器やソフトウェアと一緒に使用する際に便利です。

以下の方法で、MIDI クロックメッセージの送信を有効または無効することができます：

- "Global" ボタンを押してメニューを表示させます。
- "MIDI Clock Tx" とラベルの付いたメニュー項目に "On" または "Off" が表示され、クロック送信のオン / オフを示します。
- 上部のロータリーノブを右に回してクロック送信を有効にする (" オン ") か、左に回して無効にします ("Off")。

"On" に設定すると SL MkIII がクロックテンポを送信するため、機器やソフトウェアが SL MkIII の MIDI クロックを受信するよう正しく設定されている場合、SL MkIII に同期した形で作動します。MIDI クロックメッセージが 24PPQN（pulses per quarter note/ 四分音符あたりの分解能）で USB MIDI および 2 つの DIN ポートに送信されます。

SL MkIII アナログクロックを使用している場合、"Clock Out" とラベルが付いたメニュー項目の上のロータリーノブを回して 1、2、4、8 または 24PPQN から選択してください。

"Tempo" ボタンを押すことで、SL MkIII の内部クロックのテンポを調節できます。Tempo ボタンを押すと、LCD が BPM 値としてテンポを表示します。上部のロータリーノブで調整可能です。

C. MIDI Out 2

"MIDI Out 2" もまた、共通設定の重要な項目です。

"Out" に設定されている場合、SL MkIII は 2 つの MIDI DIN 出力を使用することができます。したがって、本体背面の "OUT" や "OUT 2" DIN ソケット経由で MIDI クロックを 2 つの別々の送信先に送ることが可能です。

しかし、MIDI Out 2 を一つの出力から "Thru" に変更することも可能です。"Thru" に設定されている場合、2 つ目の MIDI 出力は MIDI DIN 入力からのメッセージを MIDI DIN 出力へコピーし、SL MkIII が内部で生成されたいかなる MIDI も出力部へ送信することはありません。

設定が "Thru" に変更された際にパートが MIDI Out 2 ヘルレーティングされている場合（セクション 2:パート設定、" 送信先の選択 " を参照）、直前に設定されていたパートの送信先は変わりませんが、MIDI は本体から送信されなくなり、パートから送信される MIDI が MIDI Out 2 から一切送信されなくなります。

D. Fader Pickup

この設定では、フェーダーとモジュレーションホイールがそれらの現在の値に対して動作する挙動を変更します。以下 4 つの項目から選択できます：

- Off（デフォルト）：フェーダーおよびモジュレーションホイールのピックアップがオフの状態。
- On：フェーダーとモジュレーションホイール両方のピックアップがオンの状態。
- Faders：フェーダーのピックアップがオンであり、モジュレーションホイールのピックアップはオフの状態。
- Mod Wheel：モジュレーションホイールのピックアップがオンであり、フェーダーのピックアップはオフの状態。

フェーダー / モジュールホイールのピックアップがオンの場合、コントロール部の物理的位置が以前の値に一致する（または通り過ぎる）までそのコントロール部からその値が送信されることはありません。これにより、パート間で切り替えた後に値が突然跳ね上がるような事態を防げます。また、これらのコントロール部のデフォルト値は最も低い位置（フェーダーが一番下に下げられている状態）となっています。

※ InControl を使用している際には SL MkIII のフェーダーのピックアップ動作が適用されないためご注意ください。従って、コントローラーには HUI またはお使いの DAW のピックアップ動作が適用されます。

共通設定 - ページ 2 : アナログ設定

画面左側の下方向の矢印ボタンを押すことで、さらなる共通設定オプションを表示させることができます。

E. Clock Out PPQN

トランスポートの実行中は、クロック信号がアナログクロック出力を介して四分音符ごとに送信されます。信号の量は、PPQN（四分音符あたりの分解能）単位でこのアナログクロック設定により決定されます。PPQN は 1、2（デフォルト）、4、8 または 24 に設定できます。

F. CV Mod 1 Range および CV Mod 2 Range

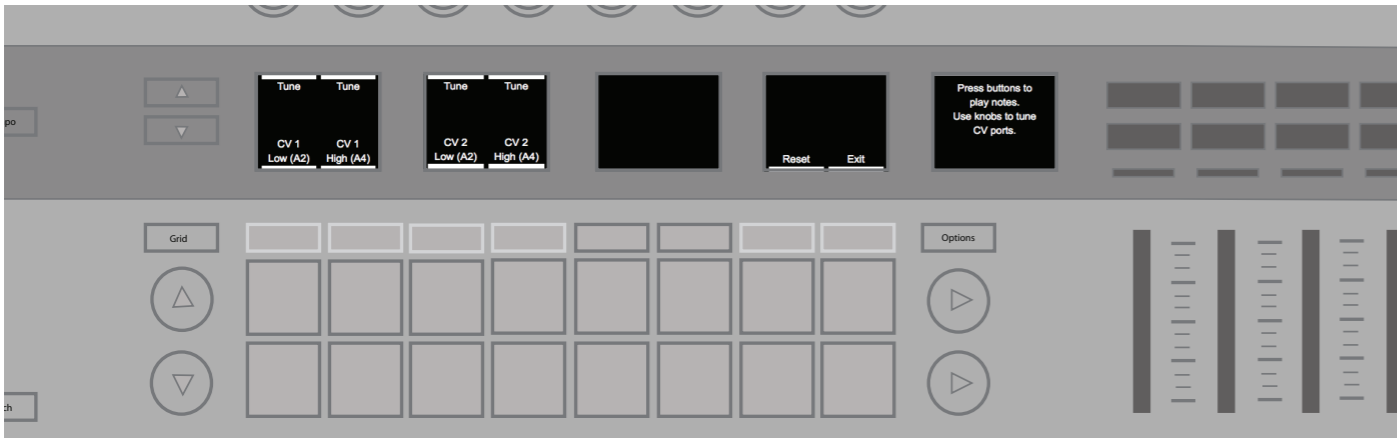
これらの2つの設定項目によって、各 MOD ポートの出力電圧を指定することができます。"-5 ~ 5V" または "0 to 5V" から選択できます。MOD ポートに送信されるあらゆる CC メッセージが、どちらかの範囲にマッピングされます。

G. CV Mod 1 CC および CV Mod 2 CC

"Mod 1 CC" および "Mod 2 CC" 上のロータリーノブを使用して各 MOD ポートに特定の CC 番号を設定することができます。本体コントロール部、シーケンサーのオートメーション、または外部 MIDI から CV ポートへルーティングするパートによってメッセージがこの CC 番号と共に送信される場合、CV MOD 出力を制御します。

H. CV Calibration

CV ピッチ出力ポートは、ピッチレンジを正確に表すために較正（カリブレーション）を行う必要があります。"Calibrate" 下のソフトボタンを押すことで、カリブレーションモードに切り替わります。



1. CV ピッチポートを較正するには、まず "CV 1 Low" または "CV 2 Low" 下のソフトボタンを押します。これにより、ポートの電圧が約 220Hz (A2) に設定されます。ポートに音源を接続して、耳で聞いて調整するかチューナーを使用してチューニングを行います。または、ポートをオシロスコープまたは測定機器に直接接続して、チューニングを検証することもできます。
2. すぐ上の Tune ノブを使用して電圧を増減し、正確に 220Hz に一致するまで出力を微調節します。
3. 次に、"CV 1 High" または "CV 2 High" 下のソフトボタンを押して、今度は 880Hz (A4) に一致するまで同じことを行います。
4. 両方のチューニングが完了したら、"Apply" 下のとオレンジ色のソフトボタンを押してこれらの設定を保存します。

これにより、CV ピッチポートの全ての範囲のカリブレーションが完了します。"Reset" のソフトボタンを押すと自分で行ったカリブレーションが削除され、工場出荷時のデフォルト設定が復元されます。"Exit" のソフトボタンを押して共通設定に戻ります。

共通設定 - ページ 3 : Key LEDs

I. Key LEDs

"Key LEDs" が "On" に設定されている場合、鍵盤を演奏するたびに鍵盤 LED（各鍵盤の上部）が白く点灯します。

J. Arp LEDs

"Arp LEDs" がオンの場合、アルペジエーターによってトリガーされるノートにしたがって鍵盤の LED が白色に点灯します。アルペジエーターがどのノートを演奏しているか確認する際に役立ちます。

K. Sequencer LEDs

"Sequencer LEDs" がオンの場合、シーケンサーまたは外部 MIDI のいずれかから演奏されるノート（コード、メロディーなど）にしたがって鍵盤 LED が白く点灯します。

L. Ext.MIDI LEDs

"Ext.MID LED" がオンの場合、本体の MIDI ポートを介して受信している方 MIDI ノートにしたがって鍵盤 LED が白色に点灯します。

共通設定 - ページ 4 : システム

M. Firmware および Bootloader Version

このエリアでは、お使いの SL MkIII のファームウェアに関する重要な情報を確認できます。これらの情報は、トラブルシューティングの際に役立ちます。

お使いの SL MkIII に最新のファームウェアが使用されていることを、定期的にチェックしていただくことを推奨しています。ファームウェアアップデートの確認およびダウンロードは、<https://components.novationmusic.com> にアクセスし、インストールの指示に従ってください。

N. スタンバイ・アニメーション

SL MkIII を 5 分間操作しないままにしておくと、スタンバイ・アニメーションに切り替わります（「ベガスモード」と呼ばれることもあります）。本体を再度操作したり、MIDI データが送信された場合、アニメーションが停止します。シーケンサーが走っている場合、スタンバイ・アニメーションには切り替わりません。

"Standby Animation" を "Off" に設定すると、いかなる時間操作を行わなくてもスタンバイ・アニメーションに切り替わりません。

6. CV/GATE

A. ノート

パート設定ビュー ("Shift" および "Sessions" を同時に押すと切り替わります) を使用すれば、CV/Gate ポートのいずれかもしくは両方にパートをルーティングできます。このようにパートをルーティングすることで、全てのノート情報が特定のポートに送られます。MIDI ノートの 24 ~ 108 は、0 ~ 7V の CV ピッチ電圧範囲へマッピングされます。この範囲外のノートは、最大電圧または最小電圧に固定されます。

CV/Gate はモノフォニックの情報のみ伝送を行えます。そのため、シーケンサー、鍵盤、MIDI からのポリフォニックノートの情報は、直前に演奏されたノートを使用してモノ信号に変換されます。ノートが有効な間は、Gate のポートは値が高い（オープン）ままになります。全てのノートが解除されると、ゲートの信号が低いレベル（クローズド）に戻ります。

B. MOD

パートが CV/Gate ポートへルーティングされた場合、個別の MOD ポートを制御することもできます。各 MOD ポートは、GLOBAL 設定で構成されている単一の CC 番号にตอบสนองするよう設定されます（GLOBAL 設定 / CV Mod 1 および CV Mod 2 を参照）。CV/Gate ポートへルーティングされるパートがこの CC 番号を本体コントロール部、シーケンサー、または MIDI 経由で出力すると、MOD ポートから 0 ~ +5V の範囲の電圧として出力されます。

7. キーボード設定

A. オクターブ

オクターブ上下ボタン ("↑" および "↓") はキーボードのオクターブを補正します。両方のボタンを同時に押すと、キーボードのオクターブがデフォルトにリセットされます。

オクターブ補正ボタン

キーボードのゾーンには追加的または独立のオクターブを適用させることができます。詳細は " ゾーン " に関するドセクションを参照してください。

オクターブ補正ボタン

B. トランスポーズ

"Shift" およびオクターブ "+"/"- " ボタンを同時に押すと、キーボードの MIDI ノートが半音単位でトランスポーズされます。Shift およびオクターブ "+"/"- " ボタンを全て同時に押すと、トランスポーズがリセットされます。これによって、白い鍵盤だけを演奏しても、別のルートノートを持つメジャー / マイナースケールが演奏されるといった面白い効果が生まれます。

トランスポーズボタン

キーボードのゾーンは、追加的なまたは独立したトランスポーズを適用させることができます。詳細はキーボードのゾーンに関するセクションを参照してください。

8. テンポ / スウィングビュー

A. テンポの設定

SL MkIII でテンポを制御している場合 (= 外部機器のテンポのスレーブとなっていない場合)、以下の方法でテンポを設定できます：

テンポ設定ボタン

- "Tempo" ボタンを押してテンポ / スウィングビューに切り替えます。
- ディスプレイが変更されて、テンポ (BPM) およびスウィング値が表示されます。
- 一番左のロータリーノブを回すことで、テンポを 40 ~ 240BPM の整数値に変更できます。

テンポ設定ボタン

B. クロックソースの表示

SL MkIII が有効な MIDI クロックを受信すると (MIDI クロック Rx の設定がオンの場合)、テンポの面が更新されて "External" と表示されます。最初はテンポの値が変動しますが、すぐに受信したクロック値に落ち着きます。キーボードは外部クロックのスレーブとなっているため、上部のロータリーコントロールを使用してテンポを変更することはできません。

テンポ設定ボタン

クロック信号が停止したり失われた場合、SL MkIII は内部テンポへ戻るため、再度ロータリーノブを使用してテンポを調整することができます。

テンポ設定ボタン

クロックソースはトランスポートが停止している間のみ変更できます。シーケンサーが外部クロックと同期して実行されている際にクロック信号が停止したり失われた場合、ディスプレイに "Sync Lost" と表示されます。シーケンサーはトランスポートが停止されるまで "Sync Lost" の状態を保ちます。トランスポートの停止ボタンを押した後、外部信号が利用できる場合には、シーケンサーは再度外部クロックを使用し始めます。利用できない場合、内部クロックを使用します。

テンポ設定ボタン

C. スウィング

SL MkIII のスウィング機能では、MIDI ノートを数学的に正確な位置から動かすことによって、より自然で人間的なサウンドを実現します。これにより、スウィング効果が生まれ、よりリアルなグルーヴが生まれます。アルペジオやパターンが少し堅苦しく感じる場合には、スウィングを追加してみると良いでしょう。

スウィング設定ボタン

スウィングは、スウィング同期レートの偶数拍を奇数拍により近づけるようにして効果を生成します。例えば、「1-2-3-4-1」などの一般的なビートパターンに関しては、スウィングを 50% より大きい値にすると 2 拍目と 4 拍目がそれぞれ 3 拍目と 1 拍目の方に近づいて遅らされます (※この 1 拍目が次の測定の開始となります)。逆に 50% より小さい値のスウィングの場合、2 拍目と 4 拍目がそれぞれ 1 拍目と 3 拍目に近づいて前のめりです。

スウィング設定ボタン

グローバルスウィングは、20% ~ 80% に調節できます。デフォルトでは 50% に設定されており、スウィングが全く適用されていない (リズムに変更が加わらない) 状態です。50% を超える値の場合、プラスのスウィングが追加され、50% 未満であればマイナスのスウィングが追加されます。

スウィング設定ボタン

D. スウィング同期レート

スウィング同期レートを変更すると、スウィングが適用される範囲が調整されます。これによって、スウィングパラメータが代替ノートを動かすテンポの間隔が定義されます。デフォルトでは 1/16 に設定されており、シーケンサーとアルペジエーターが 16 分音符のペアでスウィングすることを意味します。"T" は三連符の同期レートを示します。

スウィング同期レート

スウィング同期レート

スウィング同期レート

スウィング同期レート

"Tap" ボタンを押すことで、直感的にテンポを設定することができます。テンポが検出されるためには、最低 3 回 Tap ボタンを押す必要があります。本体が外部クロックと同期している場合、タップテンポは利用できません。

9. トランスポート

SL MkIII の一番右端にあるのが " トランスポート " として知られるボタン列です。

トランスポートボタン

A. 開始 / 停止 / 継続

以下の方法で、全てのモードで (InControl モードを除く) シーケンサーを開始、停止、継続することができます。これらのメッセージは MIDI Clock Tx がオンの場合にのみ送信されます。

トランスポートボタン

- 再生ボタンを押すとシーケンサーの再生が開始され、MIDI 開始メッセージが送信されます。
- 停止ボタンを押すとシーケンサーの再生が停止され、MIDI 停止メッセージが送られます。
- "Shift" を押しながら再生ボタンを押すと、現在の位置からシーケンサーの再生が開始され、MIDI 継続メッセージが送られます。
- シーケンサーの実行中に再生ボタンを押すと MIDI 停止メッセージが送信され、それに続いて MIDI 開始メッセージが送信されます。再生ボタンを押すと、セッションの頭からシーケンサーが再び開始されます。

トランスポートボタン

i. 外部コントロール

トランスポートボタン

SL MkIII のトランスポートは外部からも制御できます。外部メッセージを受信した場合、シーケンサーはそれぞれ以下のように動作します。

トランスポートボタン

- 開始メッセージを受信された場合、シーケンサーの再生が開始します。
- 停止メッセージを受信された場合、シーケンサーの再生が停止します。
- 継続メッセージを受信された場合、シーケンサーは現在の位置から再生を開始します。
- シーケンサーが走っている間に開始メッセージを受信された場合、そのメッセージは無視されます。

トランスポートボタン

※上記のメッセージ (" システムリアルタイムメッセージ " として知られています) は MIDI In または USB MIDI In ポートで受信されます。

トランスポートボタン

B. ソングポジション

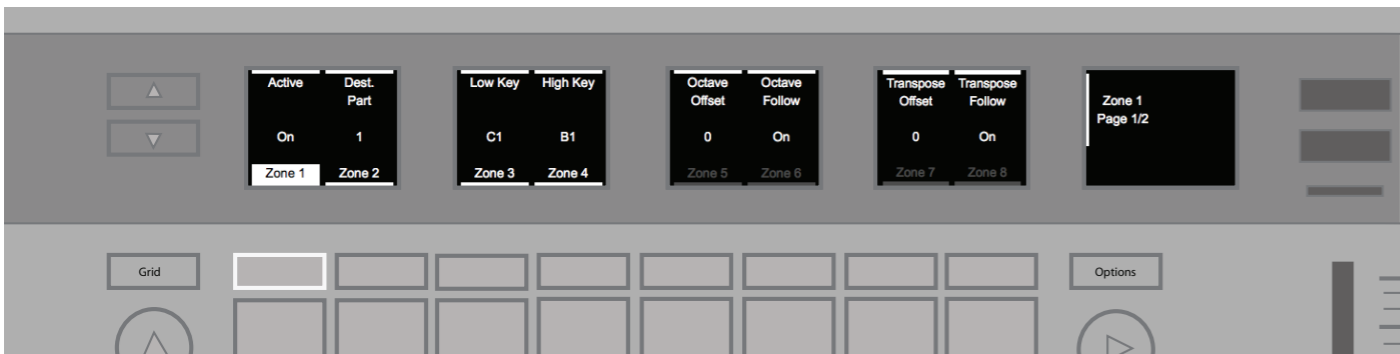
SL MkIII の内部のソングポジションは、外部ソースに従って移動させることも可能です。シーケンサーを停止させた状態で、MIDI In または USB MIDI In ポートのいずれかがソングポジションポインター (SPP) を受信した場合、内部のソングポジションが更新され、メッセージが再度伝送されます。

トランスポートボタン

しかし、シーケンサーが実行中の場合には、SL MkIII はソングポジションメッセージを無視します。

10. ゾーン

"Zone" (ゾーン) は、キーボードをエリア (=ゾーン) ごとに分割する強力な機能です。ゾーンは1つのノートにも、キーボード全体にもなり得ます。ゾーンは高度なカスタマイズを行うことができ、例えばドラムのサウンドをある1オクターブ内で演奏し、ベースを別のオクターブ内で演奏し、シンセのサウンドをさらに別のオクターブで演奏するといった設定を行うことが可能です。この柔軟性の高い機能によって、ライブパフォーマンスや自分用にカスタマイズしたセットアップを理想的に行えます。



A. ゾーンのオン/オフ切替

"Shift" を押しながら "Zones" ボタンを押して離すことによってゾーンを有効にできます。ゾーンを有効にすることで、以下のオプションを利用できます。

i. 鍵盤のLEDがゾーンを視覚化

各鍵盤の上部にあるカラーLEDは、ゾーンおよびそれに割り当てられた送信先パートを示します。これらのライトによって、鍵盤上のゾーンの範囲を視覚的に確認できるほか、異なるカラーがそれぞれの送信先パートに対応します。LEDはゾーン範囲内の有効な鍵盤上でのみ点灯します。例えば、スケールを使用中そのスケール範囲外の鍵盤上のライトは点灯しません。

ゾーン同士が重なった場合、最も低い番号を持つゾーンが優先して点灯します。例えば、ゾーン1はゾーン2より優先され、ゾーン1の範囲がLEDで示され、ゾーン2と重複している部分のLEDもゾーン1によって示されます。

ii. ゾーンビュー切替

ゾーンビューでは、用途に応じてゾーンをカスタマイズできる場所です。"Zones" ボタンを押すとゾーンビューに切り替わります。

ゾーンビューでは、選択されたゾーンのLEDのみが点灯します。

画面左の上下の矢印ボタンを押すことで、ゾーン設定ページ(1-2)を移動できます。この2ページ間では、各ゾーンで調整可能な14のパラメータが設定できます。

B. ゾーンを選択する

Zones ボタンを押してゾーンビューに切り替えた後、ゾーン名 ("Zone 1"、"Zone 2" など) 下のソフトボタンを教えてゾーンを選択します。最大で8つの独立したゾーンに対応しています。

C. ゾーンの有効/無効化

ゾーンを選択した後、一番左のロータリーノブ ("Active" のすぐ上) を使ってゾーンの有効 ("On") と無効 ("Off") を設定できます。

"Off" に設定されると、ゾーンのその他のパラメータ ("Dest.Part" ~ "Channel Pressure") がグレーアウトします。"On" に設定すると、これらのパラメータが明るく表示されます。

D. ゾーンを送信先設定

ゾーンビューで、左から2番目のロータリーノブ ("Dest. Part" 上) を使ってゾーン送信先パートを選択します。送信先は "Selected" (デフォルト) またはパート1~8より選択できます。新しいパートを選ぶと、鍵盤上のLEDの色が変化します。

E. ゾーンのキーボード範囲設定

SL MkIII の49鍵盤バージョンでは、各ゾーンのデフォルト範囲はC1~C5 (全49ノート) ですが、61鍵盤バージョンではC1~C6 (全61ノート) となっています。

i. メニューから

ゾーンビューでは、3番目と4番目のノブによって最低キーから最高キーを指定してゾーンの範囲を定めます。最低キーと最高キーもこの範囲に含まれます。

ゾーンモードは重複しているゾーンにも対応しているため、ピアノとシンセや生ドラムと電子ドラムなど、サウンドをブレンドしたい場合に便利です。もちろん、パートの重ね方はユーザーのみなさん次第です。

ii. キーボードから

鍵盤を使用してゾーンの範囲を設定することも可能です。その場合、ゾーンビューを選択した後に画面下の "Zones" ボタンを長押ししてください。鍵盤上の低いキーと高いキーを選ぶよう指示があるので、ゾーン範囲を設定してください。

F. ゾーンのオクターブ/トランスポーズ設定

ゾーンビューで5~8番目のノブを使うと、ゾーンが全体のキーボードオクターブおよびトランスポーズの設定に従うかどうか選択できます。さらに、オクターブとトランスポーズのパラメータを使用して、選択されたゾーンへオフセットを適用することができます。デフォルトでは、オフセットの値は "0" で、両方の "Follow" (従う) 設定は "On" となっています。

"Follow" 設定上のノブを回して、"On" または "Off" を選択します。オンの場合、ゾーンの動作はオクターブおよびトランスポーズボタンに影響されます。オフの場合には影響されません。"Offset" パラメータ上のノブを回すと、選択したゾーンへの永久的なオクターブおよびトランスポーズシフトを設定できます。

G. ゾーンのホイールの有効/無効化

ゾーンビューのページ2では、4番目と5番目のノブで "Pitch" (ピッチベンド) および "Modulation" (モジュレーションホイール) が現在選択中のゾーンに影響を与えるかどうか選択できます。デフォルトでは、両方とも "On" に設定されています。"Pitch" および "Modulation" 上のそれぞれのノブを回すことで、ホイールの効果のオン/オフを切り替えられます。

H. ゾーンのチャンネルプレッシャーの有効/無効化 e

ゾーンビューの2ページ目では、6番目のノブでキーボードのチャンネルのアフタータッチ (圧力) が現在選択中のゾーンに影響を与えるかどうか選択できます。デフォルトではオンになっています。"Channel Pressure" 上のノブを回してオン/オフのいずれかを選べます。

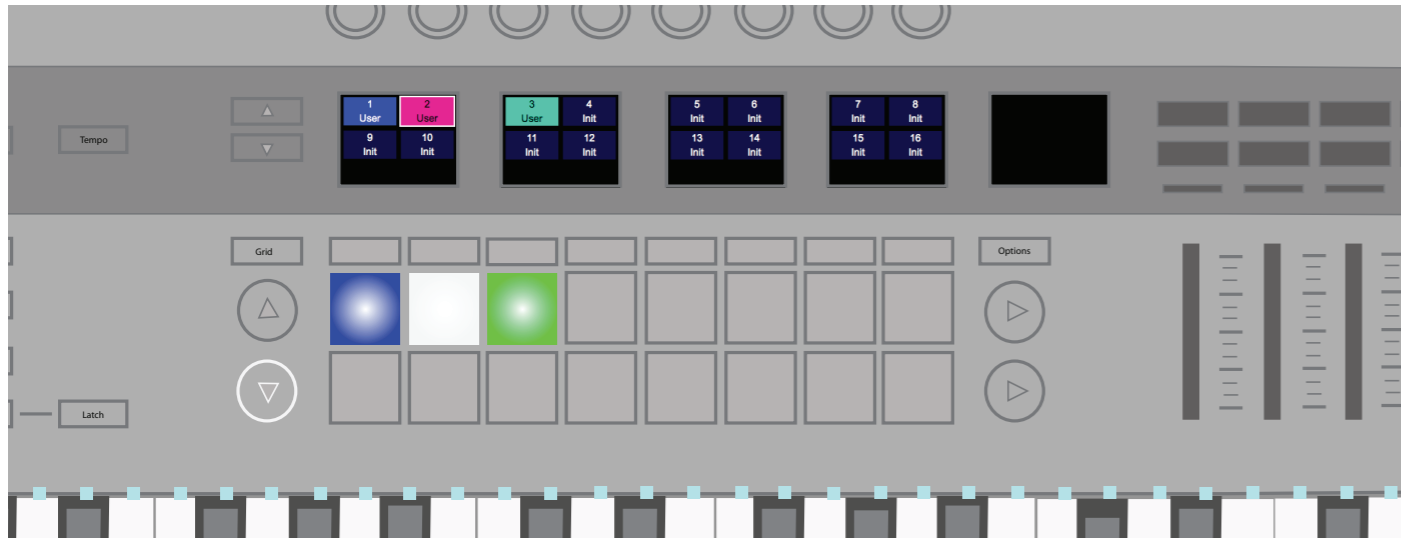
I. ゾーンのパダルの有効/無効化

ゾーンビューの2ページ目では、1~3番目のノブでエクスプレッションペダル ("Expr. Pedal")、サステインペダル、フットスイッチの信号が現在選択中のゾーンに適用されるかどうかを設定します。デフォルトではこれら3つ全てのオプションがオンに設定されています。それぞれの項目の上部のノブでオン/オフを切り替えられます。

11. セッション管理

"Sessions" ボタンを押すと、セッションビューに切り替わります。セッションビューでは、8x2 パッドを使用して作成したセッションの保存や読み込みを行えます。

8x2 のパッドエリア左側の矢印ボタンを使用して、セッションビューのページを変更します。1 ページごとに 16 のセッションが保存でき、全 4 ページで合計 64 のセッションが扱えます。



セッションには名前がつけられ (Components 上で作成できます)、色の変更も可能です。"Save" ボタンを一度押してから、画面下 1 ~ 2 番目のソフトボタンを使用して色を選択します。"Save" ボタンを再度押して確定します。

A. セッションの読み込み

セッションを読み込むにはまずセッションビューに切り替え、8x2 のパッドエリアのパッドを 1 つ押します。

B. セッションの保存

現在操作中のセッションはいつでも保存が可能です。"Save" ボタンを一度押すと点滅するので、"Save" ボタンを再度押して確定します。

選択されているセッションビューでは、そのセッションを新しい場所に保存したり、セッションの色を変えることも可能です。"Save" ボタンを一度押すと点滅するので、画面下の左から 1 ~ 2 番目のソフトボタンを使用して様々なセッションの色を選択できます。色が決まったら "Save" ボタンを再度押してそのまま保存するか、または別のセッションパッドを選択して新しいスロットにセッションを保存します。この操作によって、そのスロットに現在保存されているデータは上書きされます。

C. セッションの消去

セッションを選択した後に、"Clear" ボタンを押したまま現在のセッションに対応するパッドを押すと、全てのデータが消去され、そのセッションの設定がデフォルトの状態にリセットされます。

D. セッションのキュー

セッションビューでは、シーケンサーが再生中に新しいセッションの再生準備をすることができます。パッドを押すと点滅し、トラック 1 (マスタートラック) で現在演奏されているパターンが終了次第そのセッションが再生される準備が整っている (キューが設定されている) ことを示します。再生されるとそのパッドが白く点灯します。

E. インスタント・セッションスイッチ

セッションビューでは、シーケンサーが再生中に新しいセッションに即座に切り替えることが可能です。"Shift" を押したままそのセッションパッドを押すと実行されます。現在再生中のパターンの位置によって新しいセッションが演奏されます。

F. プログラムチェンジを使用したセッションの読み込み

チャンネル 16 でプログラムチェンジ・メッセージを本体に送信することで、セッションを読み込むことが可能です。デフォルトでは、示されているセッションが即座に読み込まれます。64 がプログラム ID に追加された場合、セッションの読み込みが (再生中に) キューされます ("セッションのキュー" 参照)。

G. ソングセレクトを使用したセッションの読み込み

シーケンサーが停止している間にソングセレクト・メッセージを本体に送信することで、セッションを読み込むことが可能です。読み込むセッションはソング ID によって示されます。

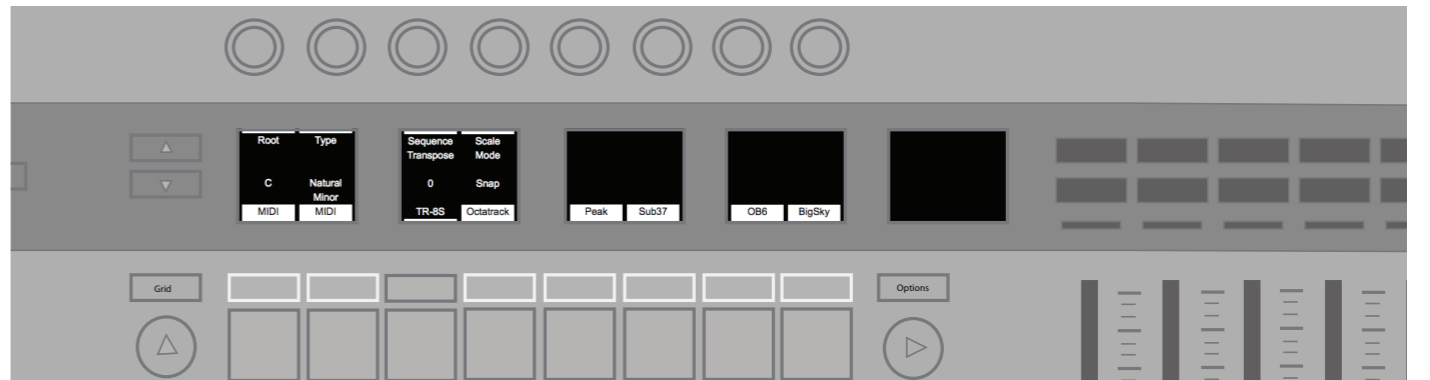
H. 保存のロック

"Save Lock" (保存のロック) 機能では、セッションの保存ができないようロックすることが可能です。これを行うには、"Shift" および "Save" ボタンを押しながら本体をオンにします。電源ボタンを使用して本体がオフにされると、設定が保存されます。保存のロックがオンの場合、点灯している "Save" ボタンの LED が消灯し、セッションの保存ができない状態を示します。保存のロックをオフにするには、同じ手順を繰り返します。

12. スケール

A. スケールの有効 / 無効化

スケールビューは、初心者の方がコードとスケールの基礎を学習し始めるための優れた入口となります。



"Shift" を押しながら "Scale" ボタンを押すと、スケールビューの有効 / 無効を切り替えられます。

スケールビューが有効の場合、鍵盤を演奏している場合にもシーケンサーを使用している場合にも、選択したスケール内でのみノートが演奏されます。スケールの種類は、西洋音楽の伝統的なスケール (C メジャー、E ドリアンなど) からマルバのようなそれ以外の音楽のものにまで多岐にわたります。スケール設定 ("スケール設定" を参照) で、スケールを切り替えることができます。

スケールが有効の場合、鍵盤上の LED が次のように動作します：

- ルートノート (音) が明るく点灯
- スケール内のノートが暗く点灯
- スケール外のノートがオフ (消灯)

つまり、スケールビューがオンの場合、(明るい / 暗い) 鍵盤を弾くことで選択されたスケール内でのみノートを演奏することができます。

B. スケール設定

"Scale" ボタンを押すと、様々なスケール設定が画面上に表示されます。

i. ルートノート (音)

一番左の "Root" とラベルの付いたオプションでは、スケールのルート音を変更できます。上部のロータリーノブを回して、以下のクロマチックノートからスケールのルート音を選択できます：C、C#、D、E、Eb、F、F#、G、Ab、A、Bb、B

ii. スケールタイプ

ルート音を決定したら、次にスケールタイプを選択する必要があります。"Type" 上部のロータリーノブを回して、以下のスケールのうち1つを選択します：ナチュラルマイナー、メジャー、ドリアン、フリジアン、ミクソリディアン、メロディックマイナー、ハーモニックマイナー、ビバップドリアン、ブルース、マイナーペンタトニック、ハンガリアンマイナー、ウクラニアンマイナー、マルバ、トディ、ホールトーン、クロマチック

iii. シーケンスのトランスポーズ

"Sequence Transpose" 上部のノブを回すと、シーケンサーによって生成され演奏されるノートにトランスポーズ値が適用されます。つまり、設定された値の分シーケンスが組まれたパートの音程がずらされます(例:5半音)。ルートやタイプとは独立して無関係に機能するため、ノート自体をトランスポーズすることなくシーケンサーのパートにスケールを適用できます。

シーケンスは、上下に 11 半音まで（半ステップ）トランスポーズできます。

iv. スケールモード

"Scale Mode" というラベルが付いている画面エリアでは、選択されているスケール外のノートをスケールビューがどのように処理するかを設定できます。各設定は以下のように動作します：

- Snap - スケール外のノートが（高低関わらず）最も近いスケール内のノートにスナップ（吸着）します。
- Filter - そのスケール内に存在しないノートが演奏されません（=正しいノートに吸着されません）。
- Display Only - スケール内に存在しないノートも修正されることなく使用できます。この設定では、鍵盤の LED が演奏を行う上でのガイドとなりつつ、一方でノンダイアトニックのノート（スケール外のノート）も自由に演奏を行えます。

v. パートごとのスケールのオン/オフ切替

パッド上部（および画面下）のソフトボタンを押すことで、パートごとにスケール機能のオン/オフを切り替えられます。したがって、スケールモード（およびその設定）の影響を受けるパートと受けないパートを選択することが可能です。

これはドラムパートによく使用されうるオプションです。一般的なドラムバンクはピッチに従って配列されないため、スケールを念頭に置いて演奏することが難しくなります。したがって、パーカッションパートを演奏している間はスケールモードをオフにして、シンセ、ベース、ストリングスなどパートではオンのままにしておく、といった設定が可能です。

13. MIDI ポート / ルーティング

A. ホスト入力

i. MIDI - パートから送信される MIDI が USB にルーティングされる場合に使用されます。Components を使ってコンテンツを転送する際にも使用されます。

ii. InControl - InControl または HUI プロトコルを使用して DAW と通信する際に使用されます。

iii. From DIN 1 - MIDI DIN 1 から受信した MIDI を転送し、本体を MIDI インターフェースとして使用できるようにします。

B. 出力

i. MIDI - MIDI をパートに送ってシーケンサーに録音する際に使用されます。Components を使ってコンテンツを転送する際にも使用されます。

ii. InControl - InControl または HUI プロトコルを使用して DAW と通信する際に使用されます。

iii. To CV/Gate - SL MkIII の機能によって影響されることなく、このポートに送信されるノート情報が変更されずに CV/ ゲートポートから直接送信されます。MIDI チャンネル 1 および 2 は、CV/Gate ポート 1 および 2 を個別に指定するために使用されます。CC 番号が各 MOD 出力（GLOBAL 設定 /MOD CC を参照）に割り当てられてこの MIDI ポートに送られる CC メッセージは、それらの MOD ポートに直接出力されます。

iv. To DIN1/DIN2 - SL MkIII の機能によって影響されることなく、これら 2 つのポートに送信される全ての MIDI が、変更されずに、個別の MIDI DIN ポートから直接転送されます。

14. Components

A. テンプレートエディター

テンプレートは Components を使用して編集でき、送信されるメッセージやロータリーノブ / フェーダー / ボタン / パッド / ホイール / ペダルの動作をカスタマイズできます。Components のリンクは、"2. テンプレート" を参照してください。

B. Librarian

SL MkIII の Librarian 機能を使用することで、セッションやテンプレートの送受信を SysEx 経由で行えます。この送受信は Components を使用して主に行われます（Components のウェブサイトリンクは、"2. テンプレート" を参照）。

コンテンツが SL MkIII に送信されると、本体がコンテンツ転送モードに切り替わります。このモードではトランスポートが停止され、UI コントロールが無効になります。画面上に転送の進捗が示されます。

転送が完了するとコンテンツ転送モードが終了され、直前のビューに戻ります。

転送が不完全または正常に行われなかった場合、短い一時停止（1 秒）の後コンテンツ転送画面に切り替わります。

C. ファームウェアのアップグレード

新しいファームウェアが利用できる場合、Components を使用してアップグレードが可能です。"2. テンプレート" に記載のリンクからスタンドアローンの Components アプリケーションをご利用いただけます。

B. HUI

HUI プロトコルを利用すれば、SL MkIII を Mackie の HUI のように機能させることができ、HUI に対応している DAW と相互に作用させることができます。

15. InControl

"InControl" ボタンを押すと、InControl モードに切り替わります。InControl モードは、SL MkIII を Pro Tools、Cubase、Reaper、Logic、Reason、そして Live のような代表的な DAW とシームレスに統合させるための機能です。次の表では、InControl が対応する各 DAW の機能を示しています。

A. DAW 別対応機能

機能	Pro Tools	Cubase	Studio One	Reaper	Logic	Reason	Ableton
チャンネル制御							
フェーダーを使用したボリューム制御	可	可	可	可	可	該当なし	可
エンコーダーを使用したパンの制御	可	可	可	可	可	該当なし	可
トラックの選択	可	可	可	可	可	該当なし	可
トラックのミュート	可	可	可	可	可	該当なし	可
トラックのソロ	可	可	可	可	可	該当なし	可
トラックのアーム	可	可	可	可	可	該当なし	可
トランスポートの制御							
巻き戻し	可	可	可	不可	可	可	可
早送り	可	可	可	不可	可	可	可
停止	可	可	可	可	可	可	可
再生	可	可	可	可	可	可	可
録音 (アーム)	可	可	可	可	可	可	可
ループ	可	可	可	不可	可	可	可
トラックのナビゲーション							
トラックの左右移動	可	可	可	可	可	可	可
バンクの左右移動	可	可	可	可	可	可	可
トラック名	可	可	可	可	可	不可	可
その他							
保存	可	可	可	可	不可	該当なし	可
アンドゥ	可	可	可	不可	可	該当なし	可
プリロール	可	可	可	不可	不可	該当なし	可
ポストロール	可	可	該当なし	該当なし	不可	該当なし	可
カウントイン	不可	不可	不可	不可	可	該当なし	不可
エンコーダーを使用した送信の制御	可	可	可	該当なし	可	該当なし	可
メトロノーム	不可	不可	不可	不可	可	可	可
クリップコントロール	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	可
デバイスコントロール	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	可	可	可
Smart Control	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	可	該当なし	該当なし

B. HUI

HUI プロトコルを利用すれば、SL MkIII を Mackie の HUI のように機能させることができ、HUI に対応している DAW と相互に作用させることができます。

(例：Steinberg、Cubase、Pro Tools など)

i. HUI ハートビート

InControl を押した後に (DAW から送られる) ハートビートメッセージを検出次第、SL MkIII が HUI ビューに切り替わります。3 秒以上ハートビートメッセージが受信されない場合、自動的に InControl モードに戻ります。

ii. チャンネルコントロール

- ボリューム

本体右に備わった 8 つのフェーダーを使用して、チャンネルのボリュームを変更できます。各フェーダー上部の LED がその値を示します。

- パン

ロータリーノブを使用して、チャンネルのパンポジションを変更できます。各ノブの下に現在のパンポジションが表示されます。

- ミュート / ソロ / アーム

本体右に備わったソフトボタンを使用して、各チャンネルのミュート、ソロ、アーム機能を制御できます。デフォルトではミュートおよびソロのみが可視化されていますが、上方向のページボタンでアームにもアクセスできます。ボタンの LED はお使いの DAW によって異なる動作をします。例えば Pro Tools の場合、アームボタンがオンの場合点滅します。

- センドコントロール

"Options" ボタンを押すとエンコーダーのアサインメニューにアクセスでき、センドレベルを制御するようエンコーダーを設定できます。画面隣のページ上下ボタンを使用してセンドグループ A ~ E にアクセスします。本マニュアル作成時点では、Pro Tools の場合のみロータリー下部にセンドの名前が表示されます。

- トランスポートコントロール

トランスポートボタンによって、各 DAW 上の対応した機能を制御することができます。その動作はほとんど同じですが、各ボタンの機能は DAW によって異なります。基本的には以下のような機能となっています：(左から順に) 巻き戻し、早送り、停止、再生、ループのオン / オフ、アーム / 録音

- "Track" の左 / 右ボタン、バンクの左右移動

"Track" の左 / 右ボタンで、現在操作しているバンク (8 チャンネル) を 1 チャンネルずつ左右に移動させられます。"Shift" を押したまま "Track" の左 / 右ボタンを押すことで、完全な 1 つのバンクを左右に移動できます。

- キーボードショートカット

Shift を押したまま本体左に位置するソフトボタンを操作することで、様々なキーボードショートカットにアクセスできます。これらのボタンに備わった LED の機能は DAW によって異なります。

- ボタン 01 (一番左) を押すとアンドゥが行われます。Pro Tools では、アンドゥの後にこのボタンが点滅し、リドゥを行う必要があるか確認します。
- ボタン 2/3 を押すとプリロールとポストロールが切り替わります。
- ボタン 8 (一番右) を押すと DAW のセッションが保存されます。例えば Pro Tools の場合、ボタン 8 を押した後に "Save" ボタンが点滅を始めます。これは、Pro Tools による保存の確認機能です。再度ボタンを押すことで保存を行えます。

iii. DAW のセットアップ

- Cubase

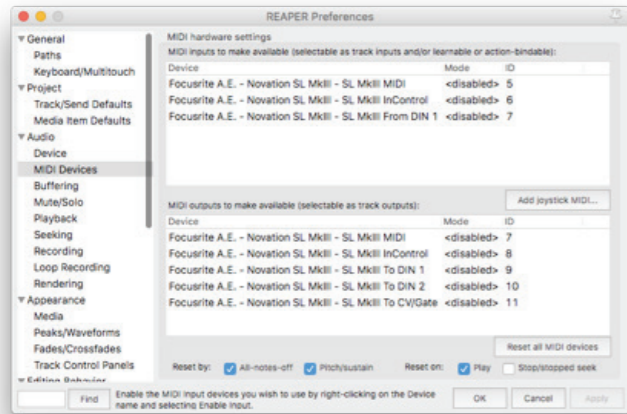
SL MkIII を Cubase の HUI コントロールサーフェスとしてセットアップするには、"Studio" > "Studio Setup" > "MIDI Port Setup" の順に移動します。ポートは必ず下記のように設定してください。"Novation SL MkIII SL MkIII InControl" ポートで "in 'all MIDI ins" を有効にしないようにしてください。

Cubase の "Studio Setup" ウィンドウ内の小さな "+" アイコンをクリックして、'Mackie HUI' を選択します。次に "Mackie HUI" のタブで、入力 / 出力ポートを以下のように "Novation SL MkIII SL MkIII InControl" に設定します：

※ Windows の場合、"Novation SL MkIII SL MkIII" ポートが "MIDIIN(put)"/"MIDIOUT2" またはそれに似たものによって表示される場合があります。

• Reaper

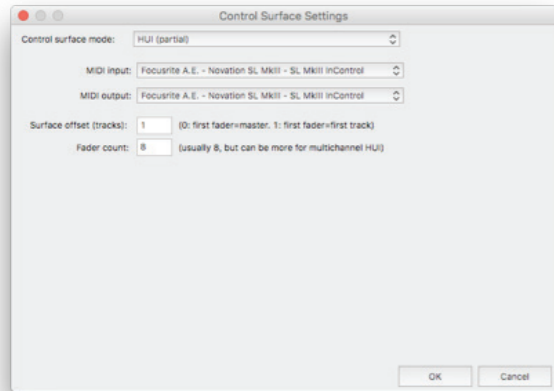
SL MkIII と連携させる場合、Reaper バージョン 5.941 以降が必要となります。



SL MkIII を Reaper の HUI コントロールサーフェスとしてセットアップするには、"オプション" > "設定 ..." > "MIDI デバイス" の順に移動します。

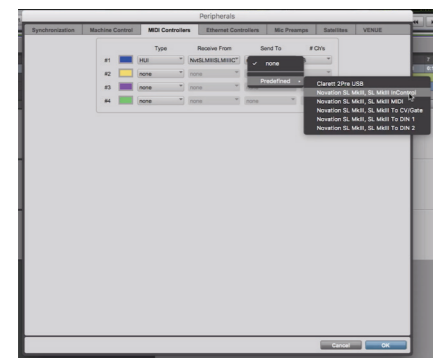
ポートは上記のように必ず "Focusrite A.E. SLMKIII InControl" に設定します (Focusrite A.E. SLMKIII MIDIIN2 for Windows)。"Focusrite A.E. - Novation SL MkIII - SL MkIII InControl" ポートに "!! N/A..." と表示されないようにします。表示されてしまう場合、機器を右クリックして "Forget device" を選択してください。

"Reaper 設定" ウィンドウ内の "Control/OSC/web" タブに移動し、"Add" をクリックして新しいコントロールサーフェスを追加します。次に、"Control Surface Settings" ウィンドウで "Control surface mode" を "HUI (partial)" に設定し、入力 / 出力ポートを以下のように "Focusrite A.E. - Novation SL MkIII - SL MkIII InControl" に設定します：



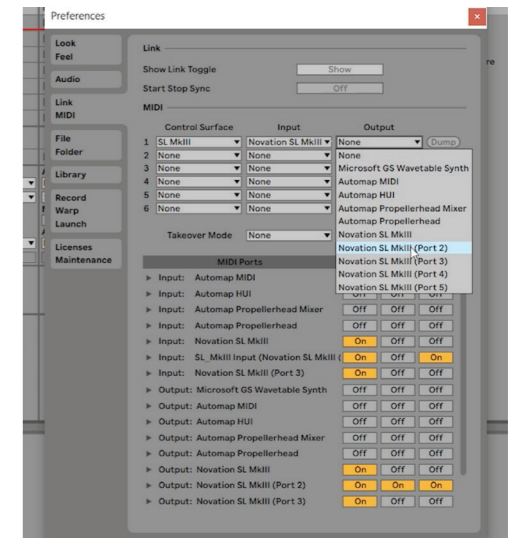
iv. Pro Tools

Pro Tools 内で SL MkIII をセットアップするには、"設定" > "ペリフェラル ..." > "MIDI コントローラー" の順に移動します。お使いのポートが以下の通りセットアップされていることを確認してください。タイプを 'HUI' に設定し、「受信元と送信先」を 'Novation SL MkIII, SL MkIII InControl' ポートに設定します。(MIDIIN 2 on Windows)。



C. Ableton Live

i. セットアップ



1. "Live" メニューから "環境設定" に移動します。以下のショートカットキーでも可能です：Command (Mac) / Ctrl (Windows) + "<"
2. "Link/MIDI" タブをクリックします。
3. "コントロールサーフェス" のドロップダウンメニューで "SL MkIII" を選択します。
4. 次に、入力 / 出力オプションの両方のドロップダウンメニューで "Novation SL MkIII" を選択します。
5. 最後に、"MIDI Ports" セクションで "Novation SL MkIII" ("SL MkIII MIDI") の "トラック"、"同期"、"リモート" をオンにします。これらの設定は必ず入力と出力の両方に対して行ってください。さらに、"SL_MkIII Input" と "SL-MkIII Output" 両方の "トラック" を "オン" に切り替えます。

ii. Live セットのナビゲーション

• 選択リング

SL MkIII が Ableton Live セットに正しく接続されると、Live のセッションビュー内に四角形の赤い枠が表示されます。InControl ボタンを押すと (まだ押していない場合)、現在赤い枠の中に配置されているトラックの名前が SL MkIII の画面下部に表示されます ("Bass" や "7-Audio" など)。SL MkIII はこれらのトラックを様々な方法で制御できます：パッドは赤い枠の中に配置されているクリップを表し (制御し)、フェーダーはトラックボリュームを、画面上部のロータリーノブは Live デバイスのパラメータを制御します (ここに記しているのは InControl の機能の一部であり、さらなる機能が備わっています)。次のセクションから、SL MkIII で Ableton Live を制御する方法をさらに詳しく解説します。

• トラック選択

Ableton Live セット内でトラック選択を行う方法の一つとして、左右の "Track" ボタンを使用する事が出来ます (上図、緑に点灯)。右の Track ボタンを押すと現在選択されているトラックの右のトラックが選択され、左の Track ボタンを押すと左のトラックが選択されます。トラックを選択してもアームはされませんが、そのデバイスを表示または変更できるようになります (トラックのアームに関しては "8x2 のソフトボタン" セクションを参照)。

赤い四角形で囲まれた範囲は視覚的な補助であり、その範囲は左右の Track ボタンで動かす事が出来ます。これにより四角形がドラッグされ、新たな範囲に含まれるトラックが選択されます。四角形の範囲内には一度に 8 トラックのみ含まれます。

Shift ボタンを押しながら左右の Track ボタンを押すことで、8 トラック分の選択範囲を一度に移動させることができます (トラックがある場合)。この場合、選択されるトラックはそのポジションを保ちます。例えば 2 番目のトラックを選択している際に 8 トラック分選択範囲を一度に右方向に移動させた場合、選択されるトラックは新しい選択範囲内の 2 番目のトラック、つまり 10 番目のトラックとなります。

選択されたトラックが移動させた方向の最後のトラックの場合、その方向の Track ボタンの点灯が暗くなり、その方向にこれ以上移動させられないことを示します。例えば、Live 内のトラック番号 1 が現在選択されている場合 (例: "1 Simpler")、その左側にはさらなるトラックが無いいため、左の Track ボタンが緑に点灯しません。

- 上下ボタン

上下の矢印ボタン（パッド左側）を押す事で、Ableton Live のセッションビュー内を縦方向に移動できます。これらのボタンは選択範囲を一度に1シーン分上下に移動させる事ができ、Live セット内でより多くのクリップおよびシーンをローンチ、録音、または停止できます。

- ソフトキー

赤く囲まれた選択範囲内で直接トラックを選択する別の方法として、8つのソフトキー（画面下部およびパッド上部）を使用でき、左右のTrackボタンを使用するよりも素早く選択できる場合があります。やはりこれらのソフトキーもトラックの順番に対応しており、例えば、トラック1〜8が選択範囲内に含まれている場合、一番左のソフトボタンはトラック1を選択し、その隣（右）のボタンはトラック2を選択します。

- スクリーンラベル

スクリーンラベル（上図内で赤く示されているもの）によって、画面内で現在どのコントロールが表示されているのが確認できます。Live デバイスやデバイスのパラメータが変更されるたびにこのラベルが移動し、現在コントロールしているものが視覚的にわかります ("オプション"セクションでLiveデバイスの表示や編集の詳細について解説しています)。

- コントロール通知

通知画面の最下部は、特定のパラメータに対して行った変更による即時的なフィードバックを与えるエリアとなっています。このフィードバックはポップアップ型の通知であり、変更が行われた時のみ示され、その後また消えます。上図では、インストゥルメント"TR-909"を含むトラックの入力モニタリングモードが"ln"に変更されています。この通知エリアでは、フェーダーが動かされた場合にはボリュームの変更も示されます。

iii. パッド

- クリップおよびシーンのコントロール（旧：クリップおよびシーンのローンチ/停止）

デフォルトでは、SL MkIIIの8x2パッドはAbleton Liveのセッションビューのクリップを表します。そして、選択範囲内のクリップや空のクロックプロットを示すため、録音/ローンチ/停止を行えるローンチが視覚的にわかります。

トラックがアームされている場合、使用できるクリップスロットのパッドが赤色に変化します。これらの赤いパッドを押す事でその録音を開始できます。再度押す事でクリップの録音を停止し、再生を開始できます。

すでに録音されており、ローンチまたは再生準備ができているクリップは緑色に点滅します。録画されていても待機状態のクリップはそのトラックの色になります。つまり、(明るい赤色ではない)色が付いているパッドを押す事で再生が開始できます。

パッド列右側の再生ボタン(緑の右矢印ボタン)を押すと、シーン(すなわち同じ横一列内の全てのクリップ)をローンチできます。この場合、そのシーンが正常にローンチされるまで再生ボタンと使用できるクリップが点滅します。

アームされていないトラックのクリップを停止するには、同じトラックの上または下の暗い(未点灯の)パッドを押します。

アームされていないトラックの停止または全てのクリップの停止を行うには、まずShiftボタン(本体左上部)を長押しします。すると、パッドの下列および下のシーンローンチボタンが赤色になるので、赤いパッドを押すとそのトラック上のクリップが停止され、赤い再生ボタンを押すと再生中の全てのクリップが停止します(Live内での全クリップ停止ボタンの機能に相当します)。

- グリッド

パッドのすぐ左上には"Grid"ボタンが備わっており、Gridボタンを押すとパッドがドラムビューに切り替わります。また、Gridボタンが緑色に変わります。ドラムビューでは、パッドを使用してドラムやサンプルを演奏できるため、Ableton Liveのドラムラックの演奏に最適です。鍵盤よりも使いやすと感じる方もいるでしょう。

下の列の一番左のパッドはC1を、その右のパッドはC#2を、そして上の列の一番右のパッドがD#2をといったようにトリガーが行われます。より低い/高いオクターブにアクセスする場合には、パッドエリアすぐ左の緑の上/下ボタンを押します。

ドラムラックがトラックに含まれている場合、オーディオサンプルを含むパッドが黄色く点灯します。最後に再生されたパッドは青色に、ミュートされたパッドはオレンジに、そしてソロモードのパッドは紫色に点灯します。また、空のパッドは点灯しません。

"Grid"ボタンをもう一度押す事で、パッドを使って再度クリップのローンチを行えるようになります。

iv. 8x2のソフトボタン

8x2のソフトボタンエリア(フェーダー上部)では、トラックの状態を素早く変更できます。一番右の画面のボタンラベルには、ソフトボタンの現在の機能が表示されます。

- ミュートおよびソロ

デフォルトでは、8x2ソフトボタンの機能はバンク1にしたがって、上の列の黄色いボタンがトラックのミュート/アンミュートを、下の列の暗い青色のボタンがソロのオン/オフの切り替えを担っています。ミュートされると黄色のソフトボタンが暗い黄色に変わり、トラックがソロにされると対応するソフトボタンが明るい青色に変わります。

- モニターおよび録音アーム

8x2のソフトボタンエリアの右側の緑色の下方向のボタンを押す事で、バンク2に移動することができます。バンク2に移動すると、上の列のソフトボタン(黄色)でMIDI/オーディオのモニタリングオプションを選択できることが一番右の画面で確認できます。デフォルトではAbleton Liveのトラックは"Auto"に設定されていますが、上の列のボタンを押すことでモニタリングを"Off"または"ln"に変更できます。下の列のボタン(暗い赤色)では、録画アームオプションを制御します。トラックを"Monitor ln"に設定するとそのソフトボタンが水色に変わり、トラックを録音アームするとそのソフトボタンが明るい赤になります。

v. オプション

オプションビューでは、様々なトラックのパラメータの表示/編集のほか、デバイスチェーンの表示やチェーン内のデバイスからの選択が可能です。

InControlモード内で"Options"ボタンを押すと、オプションビューが開きます。



オプションビューに入ると、現在選択されているトラック上のデバイスチェーンが各画面上部に表示されます。デバイスはAbletonの内蔵インストゥルメントやオーディオ/MIDIエフェクト、またはサードパーティー製のものである場合があります。

- ピンク色のパッドをして制御するデバイスを選択します。するとパッドが明るいピンク色になり、その上部の画面でデバイス名が選択されます。

- 再度"Options"ボタンを押して、デフォルトのInControlビュー(パッドがクリップを制御するビュー)に戻ります。

- これにより、直前に選択したデバイスの最初の8つのパラメータが画面に表示され、上部のロータリーノブを動かすことで各パラメータを調整できます。

上図では、Ableton Liveのデバイスチェーンを示しています。ここではLimiterを選択しています。これは、Ableton Live画面上に青い手のアイコンが表示されることや、本体の明るいピンクのパッド、そしてSL MkIIIの画面上にデバイス名が表示されることで確認できます。

他のデバイスを選択したい場合(Panなどオプションビュー内の他の場所から選択したい場合)、“DeviceSlot”という名称の一番左の画面下のソフトキーを使用する事でデバイスチェーンおよびデバイス選択ビューに戻れます。

- デバイスパラメータのバンキング

Abletonでデバイスが選択されている場合は、デバイス名の横に青い手のアイコンが表示され、画面左側の上下の矢印ボタンを使用して、デバイスパラメータをさらに選択できます。矢印ボタンを押すとパラメータのバンクが切り替わり、ロータリーダイヤルでバンクの選択を変更できます。

- パンコントロールの表示および編集

"Options" ボタンを押した後に黄色い "Pan" ボタンを押すことで、赤い線で囲まれている 8 つのトラックのパンコントロールにアクセスできます。

- センドコントロールの表示および編集

"Options" ボタンを押した後に緑色のソフトキーを押すことでセンドビューに切り替わり、画面上に各トラックのセンドコントロールが表示されます。画面左の上下の矢印ボタンで利用できるセンドコントロールを切り替えられます。(編集したいセンドコントロール上部の) 対応するノブを使用して、センドアマウント (センドの量) を調節します。

- フェーダー

フェーダーを使うことで Ableton Live セットのトラックボリュームを制御できます。これら 8 つのフェーダーは赤い線で囲まれた範囲内に含まれる 8 トラックに対応します。

- LED インジケーター

フェーダー上部の LED は選択されたトラックのボリューム設定を視覚的に示します。赤い線で囲まれた範囲を移動させることで複数のトラックでフェーダーを使用することができるため(前述の "Live セットのナビゲーション" 参照)、実際のフェーダー位置は画面上のフェーダーと一致しない場合があります。Ableton Live 上のトラックボリュームを低くすると LED が暗くなり、高くすると明るく光るため視覚的な確認が簡単に行えます。

- アンドウ、リドゥ、メトロノーム、キャプチャ

InControl モード内で "Shift" ボタンを長押しすることで、パッドエリア上部の 1〜3 つ目のソフトボタンがアンドウ、リドゥ、クリックコントロールに変化します。アンドウとリドゥは Live セットの直前の操作に対して実行されます。"Click" を押すと、Live のメトロノームのオン / オフが切り替わります。

"Shift" を長押しすると "Capture" ボタンも表示され、録音を行わなかった直前の MIDI ノートの演奏を復元できます。画面下の一番右のソフトボタンを押すことで、録音を行っていなかった MIDI を復元してクリップを生成することが可能です。

D. Logic Pro X

- インストール

Logic Pro を使用して SL MKIII をセットアップするには、こちらのサポートダウンロードページからインストーラーをダウンロードします。

ダウンロードすると、SL MKIII が Logic で自動検出されます。

- トラックの選択

トラック名の下のボタンを押すことでトラックを選択でき、選択したものが強調表示されます。

- パン

トラックパンを制御するには "Options" ボタンを押して "Pans" を選択します。このビューでは、8 つのノブで 8 トラックのパンを一度に制御できます。

- ボリューム

フェーダーを動かすことでトラックボリュームを調整でき、フェーダー上の LED が現在のトラックボリュームを示します。

- センド

トラックのセンドを制御するには、"Options" ボタンを押して "Sends" を押します。これにより、8 つのノブが Logic 内のバスのレベルを制御します。画面左側の上下の矢印ボタンを押して選択されているセンドを変更できます。

- Smart Control

Logic では、Smart Control を使用して選択されているトラック上で選ばれているプラグインの 8 つのパラメータを選びます。これらを制御するには、"Options" ボタンを押してから "Smart" を押します。このビューでは、Logic 上で選択されたプラグインに対して Smart Control 用にアサインされた 8 つのパラメータを 8 つのノブで制御できます。

- ショートカット

"Options" ボタンを押してから "Shortcut" を押すと、以下のショートカットにアクセスできます：

- アンドウ
- リドゥ
- カウントイン
- Logic のカウントインのオン / オフ切替
- メトロノーム
- Logic のメトロノームのオン / オフ切替

- ミュート / ソロ

フェーダー上部のソフトボタンでは、8 トラックのミュートおよびソロを制御できます。トラックをソロにすると、ミュートされているトラックが点滅します。

- 録音アーム / 入力モニタリング

ソフトボタン (フェーダーの上部) の右にある下の矢印ボタンを押すことで、ソフトボタンの機能をミュート / ソロから録音アーム / 入力モニタリングに切り替えられます。

- トランスポート

SL MkIII のトランスポートボタンは以下の Logic のトランスポート機能を制御します：

- 巻き戻し
- 早送り
- 停止
- 再生
- サイクルのオン / オフ
- 録音

E. Reason

- Reason のセットアップ

Reason を起動後、簡単に SL MkIII をセットアップできます。USB で SL MkIII をコンピューターに接続してから、環境設定 > コントロールサーフェスに移動し、"自動検出" ボタンをクリックします。プログレスバーを含むダイアログウィンドウが表示され、完了すると SL MkIII がリストに表示されます。"Reason で使用する" にチェックが入り、"Novation SL MkIII SL MkIII From DIN 1" が有効になっている場合、SL MkIII を使用して Reason を制御する準備が完了しています。

- 概要

SL MkIII では、全てのインストゥルメント、エフェクトおよびユーティリティを Reason のラック (下図参照) 内で制御することができ、トラック間を移動することができます。

- インストゥルメント

新しいインストゥルメントを読み込む (またそれに応じて新しい MIDI トラックを作成する) たびに、SL MkIII が自動的にそのインストゥルメントに割り当てられます。

- コントロールのレイアウト

SL MkIII の InControl モードを使用することで、以下の機能を Reason で使用できます：

- "Track" 左右ボタン - Reason のシーケンサー内でトラック間を移動します。

- ロータリーノブ - インストゥルメント、エフェクト、ユーティリティおよびプレイヤーの様々なパラメータを調整します。有効なノブがパラメータ名 / 値と共に画面に表示されます。

- パッド - Reason 内の様々なパラメータを制御します。Kong ドラムデザイナーインストゥルメントを使用している場合、パッドは Kong の各ドラムサウンドを選択します。ドラムの主要なパラメータが画面に表示され、ロータリーノブでそれらのパラメータ値を調整できます。

- ソフトボタン 1 ~ 24 - Reason デバイスの内部をナビゲートします。Redrum に関しては、画面下の 8 つのソフトボタンがチャンネル 1 ~ 8 を選択します。Redrum のチャンネルを選択した後、画面上部のノブでそのパラメータ（ピッチ、パン、センドなど）を調整できます。Mixer 14:2 を使用する場合、SL MkIII のフェーダー上部のソフトボタンでミキサーチャンネルを選択して画面上部のノブを回すことで、ボリューム、低域、高域などを調整できます。

- フェーダー - デバイスのパラメータを制御します。フェーダーを使用してパラメータ値を変更する場合、左から 5 番目の画面にパラメータ名と値が表示されます。例えば Europa シンセサイザーが選択されていた場合、1 つ目のフェーダーでオシレーター 1 のボリュームを上下させることができ、"Osc1 Level" がデシベル値と共に 5 番目の画面に表示されます。

- トランスポートボタン - 本体右のトランスポートボタンで、Reason のトランスポート（巻き戻し、早送り、停止および録音）を制御します。SL MkIII の Loop ボタンを使用して Reason のシーケンサーのループのオン / オフを切り替えることも可能です。

- "Options" ボタン - Reason のメトロノームのオン / オフを切り替えます。有効な場合ボタンが白く点灯し、オフの場合にはオレンジ色に点灯します。

- 上 / 下の矢印ボタン - インストゥルメント、エフェクト、またはユーティリティが選択されている場合、パッドすぐ左の上下の矢印ボタンでプリセットを変更できます。

- ピッチホイール - SL MkIII のピッチホイールを使用して Reason のインストゥルメントのピッチを変更することができます。

- モジュレーションホイール - SL MkIII のモジュレーションホイールを使用して、選択されている Reason デバイスの様々なパラメータに変化を加えられます。モジュレーションホイールは、一般的にはインストゥルメントのフィルター周波数にアサインされます。

- サステインペダル - サステインペダルを SL MkIII の "Sustain" ポート接続すれば、ペダルを使用して Reason のパラメータに作用させることができます。

- キーボード - SL MkIII の鍵盤で Reason の様々なインストゥルメントを演奏できます。

v. エフェクトおよびユーティリティ

SL MkIII でエフェクトとユーティリティを制御するには、そのためのオーディオトラックを作成する必要があります。ラックのセクションでエフェクトまたはユーティリティを見つけ、デバイス(例:Warm Echo)上で右クリック(Windows)または Ctrl を押しながらクリック(Mac)し、"Create Track for device name" を選択してください。すると新しいトラックが Reason のシーケンサーに表示されるので、SL MkIII 上の "Track" ボタンを使用して選択することができます。エフェクトまたはユーティリティを選択するとそのコントロール部が SL MkIII の画面に表示されるので、上部のノブで調整することができます。



CAUTION:

The normal operation of this product may be affected by a strong electrostatic discharge (ESD). In the event of this happening, simply reset the unit by removing and then replugging the USB cable. Normal operation should return.

著作権 2016 年 ST マイクロエレクトロニクス

ライセンス

変更の有無を問わず、ソースおよびバイナリ形式での再配布と使用は次の条件が満たされる場合許可されます：

1. ソースコードの再配布は上記の著作権の通知、この条件リストおよび次の免責条項を保持しなければならない。
2. バイナリ形式での再配布は上記の著作権の通知、この条件リストおよび次の免責条項を配布に関して提供されるドキュメンテーションおよび（または）他の材料で再現しなければならない。
3. ST マイクロエレクトロニクスの名前またはその貢献者の名前のいずれも、特定の事前の許可書なしで導き出した製品を推奨または販促するために使用することはできないものとする。

本ソフトウェアは著作権所有者および貢献者により「現状有姿で」提供され、すべての明示的もしくは黙示的保証は否認される。それらには商品性、特定目的への適合性の黙示的保証が含まれる。著作権所有者または貢献者はいかなる場合でも、かかる損害の可能性が示唆されていたとしても本ソフトウェアの使用から何らかの形で生じる契約、厳格な責任または不法行為（過失や別の形が含まれる）のいずれであろうと、いかに生じたものであれ、またいかなる責任に対してもすべての直接、間接、偶発的、特別、典型的または結果的損害（それらには代用商品やサービスの調達、使用、データまたは利益の喪失あるいは事業の中断が含まれる）に対し責任を負わない。

STMicroelectronics International N.V スイス支店および（または）その提携会社（STMicroelectronics）から本ソフトウェアまたはそれに関する何らかの部分のインストール、コピー、ダウンロード、アクセスまたは別の形で使用することによって、その受領者は、彼または彼女自身の代理としてあるいはかかる受領者が雇用されおよび（または）従事する組織の代理として本ソフトウェアのライセンス契約によって拘束されることに同意する。

STMicroelectronics の知的財産権に従って、変更の有無を問わず本ソフトウェアまたはそれに関する何らかの部分のソースおよびバイナリ形式での再配布、再生産および使用は次の条件が満たされる場合許可されます：

1. ソースコード（変更有りまたは無し）の再配布は項目 10 と 11 で下に明記される著作権の通知、この条件リストおよび次の免責条項を保持しなければならない。
2. STMicroelectronics によって、または、同社のために製造されたマイクロコントローラまたはマイクロプロセッサに埋め込まれた場合、またはかかる機器のソフトウェア的アップデートを除き、バイナリ形式での再配布は、下記の項目 10 と 11、ドキュメンテーションおよび（または）配布で提供される他の材料に明記される、バイナリコードと共に提供される著作権の通知、この条件リストおよび免責条項を再現できないものとする。
3. STMicroelectronics の名前または本ソフトウェアに対する他の貢献者の名前のいずれも、特定の許可書なしで本ソフトウェアまたはそれに関する部分から導き出した製品を推奨または販促するために使用することはできないものとする。
4. 本ソフトウェアの変更および（または）派生的作品を含む本ソフトウェアまたはその一部は、STMicroelectronics によってまたは同社のために製造されたマイクロコントローラまたはマイクロプロセッサ機器の上で、またはそれとの組み合わせで単独および独占的に使用および実行しなければならない。
5. 本ソフトウェアの使用、再現または再配布は本ソフトウェアをオープンソース契約条件へ支配させる方法で部分的または全体的に行われることはできないものとする。「オープンソース契約条件」は、かかるソフトウェアのソースコードがそれに関連して配布される、または別の形で利用できるようにするソフトウェアの配布の一部として必要なオープンソースライセンス、あるいは www.opensource.org で指定されるオープンソースの定義に実質的に適合するオープンソースライセンス、および GNU 一般公衆利用許諾書 (GPL)、エクリプス・パブリックライセンス (EPL)、Apache ソフトウェアライセンス、BSD ライセンスまたは MIT ライセンスなどの他の同等なオープンソースライセンスを意味するものとする。
6. STMicroelectronics にはソフトウェアについてメンテナンス、サポートまたはアップデートを提供するいかなる義務も無い。
7. 本ソフトウェアは STMicroelectronics およびそのライセンサーの独占的財産であり、これからもあり続ける。受領者は STMicroelectronics およびそのライセンサーの特許権を損なう、または本契約で指定される限定された権利を除きソフトウェアの権利を取得するような行動は起こさない。
8. 受領者はソフトウェアの使用または適用される輸出管理法や規則を含むそれに関する部分に影響するすべての適用法と規制を遵守するものとする。
9. 本ライセンスに従って許可される以外の本ソフトウェアまたはそれに関する部分の再配布および使用は無効であり、本ライセンスに従って自動的にあなたの権利を解除する。
10. 本ソフトウェアは STMicroelectronics および貢献者により「現状有姿で」提供され、すべての明示的、黙示的または法律上の保証は法律によって許可される最大の範囲において否認される。それらには商品性、特定目的への適合性および第三者の知的財産兼の非侵害の黙示的保証が含まれる。STMicroelectronics または貢献者はいかなる場合でも、かかる損害の可能性が示唆されていたとしても本ソフトウェアの使用から何らかの形で生じる契約、厳格な責任または不法行為（過失や別の形が含まれる）のいずれであろうと、いかに生じたものであれ、またいかなる責任に対してもすべての直接、間接、偶発的、特別、典型的または結果的損害（それらには代用商品やサービスの調達、使用、データまたは利益の喪失あるいは事業の中断が含まれる）に対し責任を負わない。
11. 本契約で明示的に許可されたものを除き、明示的黙示的を問わず、いかなるライセンスまたは他の権利も STMicroelectronics または第三者の特許または他の知的財産権に従って許諾されることはない。



novation